

## 2010年度 工学部デザイン学科 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1P001001	デザイン学セミナー	2.0	1年後期水曜 1限	各教員	デザ 3
T1P002001	図学演習	2.0	1年前期月曜 3限	寺内 文雄他	デザ 3
T1P003001	統合デザイン実習 I	2.0	1年前期月曜 4,5限	青木 弘行他	デザ 4
T1P004001	デザイン造形実習 I	2.0	1年前期水曜 4,5限	田内 隆利他	デザ 5
T1P005001	デザイン論 I	2.0	1年前期火曜 3限	渡邊 誠他	デザ 6
T1P006001	デザイン造形実習 II	2.0	1年後期火曜 4,5限	田内 隆利他	デザ 7
T1P007001	統合デザイン実習 II	2.0	1年後期月曜 4,5限	渡邊 誠他	デザ 8
T1P008001	統合デザイン実習 III	2.0	1年後期金曜 4,5限	渡邊 誠他	デザ 8
T1P009001	デザイン論 II	2.0	1年後期火曜 2限	渡邊 誠他	デザ 9
T1P010001	デザイン科学 I	2.0	1年後期水曜 3限	青木 弘行他	デザ 10
T1Y016001	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	植田 憲	デザ 11
T1Y016002	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	田内 隆利	デザ 12
T1Y016003	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	玉垣 庸一他	デザ 12
T1Y016004	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	福川 裕一	デザ 13
T1Y016005	造形演習	2.0	1年前期火曜 5限	UEDA EDILSON SHINDI	デザ 13
T1P011001	デザイン科学 II	2.0	2年前期水曜 3限	勝浦 哲夫他	デザ 14
T1P012001	立体デザイン造形	3.0	2年前期金曜 3限 2年前期金曜 4限前半	久保 光徳他	デザ 15
T1P013001	形の工学	2.0	2年前期水曜 1限	久保 光徳	デザ 16
T1P014001	工業デザイン I	3.0	2年前期木曜 4限後半 2年前期木曜 5限	(久米 寿明)	デザ 17
T1P015001	トランスポーターデザイン I	3.0	2年前期月曜 4限後半 2年前期月曜 5限	小原 康裕	デザ 18
T1P016001	環境デザイン I	3.0	2年前期金曜 4限後半 2年前期金曜 5限	(藤本 香) 他	デザ 18
T1P017001	コミュニケーションデザイン I	3.0	2年前期水曜 4,5限	玉垣 庸一他	デザ 19
T1P018001	デザイン科学演習 I	3.0	2年前期月曜 1限後半 2年前期月曜 2限	青木 弘行他	デザ 20
T1P019001	工業デザイン II	3.0	2年後期木曜 4限後半 2年後期木曜 5限	渡邊 誠他	デザ 21
T1P020001	トランスポーターデザイン II	3.0	2年後期木曜 3限 2年後期木曜 4限前半	(野村 薫) 他	デザ 22
T1P021001	環境デザイン II	3.0	2年後期金曜 3限 2年後期金曜 4限前半	佐藤 公信	デザ 23
T1P022001	コミュニケーションデザイン II	3.0	2年後期水曜 4限後半 2年後期水曜 5限	(海保 透) 他	デザ 23
T1P023001	デザイン科学演習 II	3.0	2年後期金曜 1限後半 2年後期金曜 2限	青木 弘行他	デザ 24
T1P024001	デザインの展望	2.0	2年後期火曜 5限	佐藤 公信	デザ 25
T1P025001	ヒューマンインタフェース論	2.0	2年後期水曜 2限	岩永 光一他	デザ 26
T1P026001	デザイン材料	2.0	2年後期水曜 3限	青木 弘行他	デザ 26
T1P027001	デザイン文化論	2.0	2年後期火曜 2限	鈴木 直人他	デザ 27
T1P028001	プログラミング演習 I	3.0	2年後期金曜 4限後半 2年後期金曜 5限	石橋 圭太	デザ 28
T1P029001	平面デザイン造形	3.0	2年後期月曜 1限後半 2年後期月曜 2限	田内 隆利他	デザ 29

## 2010年度 工学部デザイン学科 シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1Z052001	知的財産権セミナー	2.0	前期集中 前期金曜 4,5 限	(朝倉 悟)	デザ 30
T1P045001	生活行動の心理学	2.0	3 年後期火曜 2 限	桐谷 佳恵	デザ 43
T1P031001	トランスポーターションデザイン III	3.0	3 年前期金曜 3 限 3 年前期金曜 4 限前半	(菅原 重昭)	デザ 32
T1P032001	環境デザイン III	3.0	3 年前期金曜 3 限 3 年前期金曜 4 限前半		デザ 32
T1P033001	コミュニケーションデザイン III	3.0	3 年前期水曜 4 限後半 3 年前期水曜 5 限	桐谷 佳恵他	デザ 33
T1P034001	デザイン科学演習 III	3.0	3 年前期金曜 1 限後半 3 年前期金曜 2 限	青木 弘行他	デザ 34
T1P043001	コミュニケーションデザイン IV	3.0	3 年後期水曜 3 限 3 年後期水曜 4 限前半	桐谷 佳恵他	デザ 35
T1P035001	デザイン数理解析論	2.0	3 年前期水曜 3 限	岩永 光一他	デザ 36
T1P036001	色と形の心理学	2.0	3 年前期月曜 3 限		デザ 37
T1P037001	環境人間工学	2.0	3 年前期水曜 2 限		デザ 37
T1P038001	プログラミング演習 II	3.0	3 年前期金曜 4 限後半 3 年前期金曜 5 限	(小城 浩之) 他	デザ 38
T1P039001	デザイン文化計画演習	3.0	3 年前期木曜 1 限後半 3 年前期木曜 2 限		デザ 39
T1P040001	工業デザイン IV	3.0	3 年後期木曜 3 限後半 3 年後期木曜 4 限		デザ 40
T1P041001	トランスポーターションデザイン IV	3.0	3 年後期金曜 4 限後半 3 年後期金曜 5 限	(林 孝一) 他	デザ 41
T1P042001	環境デザイン IV	3.0	3 年後期火曜 4 限後半 3 年後期火曜 5 限		デザ 41
T1P044001	デザイン科学演習 IV	3.0	3 年後期月曜 1 限後半 3 年後期月曜 2 限	青木 弘行他	デザ 42
T1P045001	生活行動の心理学	2.0	3 年後期火曜 2 限	桐谷 佳恵	デザ 43

T1P001001

授業科目名：デザイン学セミナー  
 科目英訳名：Seminar: Introduction to Design  
 担当教員：各教員  
 単位数：2.0 単位  
 開講時限等：1 年後期水曜 1 限  
 授業コード：T1P001001  
 講義室：工 2 号棟 102 教室

## 科目区分

2010 年入学生：専門基礎必修 E10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 講義およびセミナー形式で授業を行う。全体のプロデューサ役は学年担任が務める。受講生には、与えられた課題に対する実験、実習、生活者の意識や市場の調査、工場や施設見学などを行い、自らデザインに対する問題点や課題を発見することを求める。

[目的・目標] 一般目標：導入教育としての位置づけから、デザイン領域での研究や実践に対する基本的理解を深るとともに、学生と教員のコミュニケーションの基盤を形成することを目標とする。達成目標：上記の課題を通して、受講生はデザイン学科における勉学の方法や態度、問題意識や関心の持ち方などを身につける。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. 授業および研究の紹介 (1)
3. 授業および研究の紹介 (2)
4. 授業および研究の紹介 (3)
5. 授業および研究の紹介 (4)
6. 課題の設定と調査方法・実験方法について
7. グループによる調査・実験・見学 (1)
8. グループによる調査・実験・見学 (2)
9. 中間プレゼンテーション (1)
10. 中間プレゼンテーション (2)
11. グループによる調査・実験・見学 (3)
12. グループによる調査・実験・見学 (4)
13. 最終プレゼンテーション (1)
14. 最終プレゼンテーション (2)
15. まとめ

[評価方法・基準] 課題、レポートおよびプレゼンテーションによって成績評価を行う。

[履修要件] 必修

[備考] 第一回目の授業でグループを決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教員と受講生で相談の上、その都度決定する。また課題内容によっては時間割外の時間に行うことがある。

T1P002001

授業科目名：図学演習  
 科目英訳名：Descriptive Geometry (Lec & Lab)  
 担当教員：寺内 文雄, 小野 健太, 八馬 智  
 単位数：2.0 単位  
 開講時限等：1 年前期月曜 3 限  
 授業コード：T1P002001  
 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

## 科目区分

2010 年入学生：専門基礎必修 E10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 基礎的図法を理解し、形態の表現や伝達を行うための講義および実習を行う。各種投影法の習得、JIS 規格に基づく機械製図、副投影・切断・相貫による図形解析、透視図法による立体物の作図、実製品の形態解釈などを通して、立体の把握能力を高める。なお、本授業は統合デザイン実習 I と連携して進める。

[目的・目標] 一般目標：形態を伝達するために必要な立体把握能力を身につけ、形態の表示技術を習得する。達成目標：?主投影法や副投影法を理解し、作図することができる、?第三角法を理解し、機械製図法を習得する、?切断や相貫といった立体の図形解析ができる、?二点透視図法による作図ができる、?簡単な製品の設計と図面作成ができる。

[授業計画・授業内容]

1. 投影法の基礎\_\_主投影法と副投影法 (1)
2. 投影法の基礎\_\_主投影法と副投影法 (2)
3. 投影法の基礎\_\_主投影法と副投影法 (3)
4. JIS 規格に基づく機械製図 (1)
5. JIS 規格に基づく機械製図 (2)
6. JIS 規格に基づく機械製図 (3)
7. 切断や相貫による立体の図形解析 (1)
8. 切断や相貫による立体の図形解析 (2)
9. 切断や相貫による立体の図形解析 (3)
10. 二点透視図法 (1)
11. 二点透視図法 (2)
12. 二点透視図法 (3)
13. 実製品の形 (1) 設計と製図
14. 実製品の形 (2) 制作による確認
15. 試験とまとめ

[キーワード] 第三角法, JIS 機械製図法, 透視図法

[教科書・参考書] 「工学基礎 図学と製図 [新訂版]」磯田・鈴木著, サイエンス社 ISBN4-7819-0343-4 その他, 授業時に指示する

[評価方法・基準] 課題, 出席回数, 試験

[関連科目] 統合デザイン実習 I(p. デザ 4 T1P003001)

[履修要件] 必修

[備考] 本授業科目は、常時複数の教員と TA によって指導を行う

T1P003001

授業科目名： 統合デザイン実習 I 科目英訳名： Integrated Design Practice I 担当教員： 青木 弘行, 岩永 光一, 寺内 文雄, 下村 義弘, 小野 健太, 八馬 智 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1P003001, T1P003002	開講時限等: 1 年前期月曜 4,5 限 講義室： 工 2-アトリエ (2-601)
---	---

科目区分

2010 年入学生: 専門必修 F10 ( T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 人工物デザインの基盤には、科学的理解と実践的理解が求められる。実際の製品の成り立ちやそれを使う人間についての科学的的方法に関する講義、および、形態を思考・伝達するための実践的な表示方法についての実習を行う。なお、本授業は図学演習と連携して進める。

[目的・目標] ものや人に対する観察と描画を通じて、デザイン行為に必要な思考技術と表示技術の基礎を習得する。

[授業計画・授業内容]

1. 基本図形の描画

2. ラインドローイングによる形態把握 1
3. ラインドローイングによる形態把握 2
4. 色鉛筆による質感表現 1
5. 色鉛筆による質感表現 2
6. マーカーによる立体表現 1
7. マーカーによる立体表現 2
8. キャプションと人物による情報伝達 1
9. キャプションと人物による情報伝達 2
10. 人の理解 1
11. 人の理解 2
12. 人の理解 3
13. ものの成り立ち 1
14. ものの成り立ち 2
15. ものの成り立ち 3

[キーワード] デザイン, 表示, 表現

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 図学演習 (p. デザ 3 T1P002001)

[履修要件] 必修

T1P004001

授業科目名: デザイン造形実習 I

科目英訳名: Practicum in design fundamentals I

担当教員: 田内 隆利, (清原 明生), 玉垣 庸一, 桐谷 佳恵

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年前期水曜 4,5 限

授業コード: T1P004001, T1P004002

講義室: 創造工学センター, 工 2-アトリエ (2-601),  
創造工学センター, 工 2-アトリエ (2-601)

#### 科目区分

2010 年入学生: 専門必修 F10 (T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生、編入生、他学科教員免許取得希望者

[授業概要] 色彩構成やデッサンの実習を通してデザインの基礎能力を身につける

[目的・目標] 色彩の理解、色彩表現力、描写力、平面構成力の基礎を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 明度差の習作
2. 明度のグラデーションの習作
3. 彩度のグラデーションの習作
4. 色相環の習作
5. 前 4 課題の総括
6. モノクロームとカラーの習作
7. 色彩統一性の習作
8. 同上
9. 色彩の研究と再構成
10. 同上
11. 構成デッサン 1
12. 同上

13. 構成デッサン 2
14. 同上
15. 講評

[キーワード] デッサン、色、形

[教科書・参考書] デザイナーとアーティストのために色彩教室「COLOR WORKSHOP」発行：BNN 新社

[評価方法・基準] 各課題の期限内提出の有無及び課題目的への達成度。出席 4/5 以上が条件（4 日以上欠席で不可とする）。

[履修要件] 必修

[備考] 「デザイン造形実習」および「デザイン造形実習」を併せて平成 16 年度までに開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

T1P005001

授業科目名：デザイン論 I

科目英訳名：Theory of design I

担当教員：渡邊 誠, 樋口 孝之

単位数：2.0 単位

開講時限等：1 年前期火曜 3 限

授業コード：T1P005001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

2010 年入学生：専門必修 F10 (T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザイン工学科意匠系におけるデザイン教育の視点、デザインの役割、我が国のデザインの特性、近代デザインの歴史等について論述する。

[目的・目標] デザインの社会的使命、目的、デザインにおける用と美、伝統工芸、循環型社会のデザイン、デザインの歴史等について理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザインを学ぶということ、デザイン工学科の歩み
2. 用と美、その統合としてのデザイン
3. 時間・空間のデザイン / 日本の美の普遍性
4. 伝統的工芸とデザイン / 日本のアイデンティティ
5. 循環型社会のデザイン
6. デザインと地域政策
7. 文化としてのデザイン
8. デザインの歴史を学ぶということ
9. 機械化時代の到来と生活の芸術化
10. グラスゴー派、Art Nouveau、ユーゲントシュティル、ウィーン分離派
11. ベーレンスと AEG、D.W.B. (工業化と規格化)
12. Bauhaus I
13. Bauhaus II
14. 日本におけるデザインの歴史
15. 最終試験

[キーワード] デザイン, 用と美, 伝統工芸, 循環型社会, デザイン史

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席 (毎回出席をチェックする): 30 %、レポート課題: 30 %、試験: 40 %

[関連科目] デザイン論 II、デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「デザインの歴史」の読み替え科目である。

T1P006001

授業科目名：デザイン造形実習 II 科目英訳名：Practicum in design fundamentals II 担当教員：田内 隆利, 原 寛道 単位数：2.0 単位 授業コード：T1P006001, T1P006002	開講時限等：1 年後期火曜 4,5 限 講義室：工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601)
--	--

#### 科目区分

2010 年入学生：専門必修 F10 (T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生、デザイン学科編入生、他学科教員免許取得希望者

[授業概要] 基礎的な立体構成のエクササイズを多数行いながらステップアップし、形の見方を習得する。石膏像を粘土で模刻し、立体を把握するための訓練をする。

[目的・目標] 立体造形の構成要素は、「面」「量」「空間」であり、その構造は「幅」「奥行き」「高さ」からなる。この実習ではそれらを順を追って説明し課題を制作することによって「形の成り立ち」を見る力を養い、立体造形に関わる基礎的な造形力を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 第 1 課題：3 つの直方体による構成
2. 講評
3. 第 2 課題：多数の直方体による構成
4. 同上
5. 第 3 課題：平面図面を元にした立体構
6. 同上
7. 同上
8. 講評
9. 第 4 課題：石膏像模刻
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 講評

[キーワード] モデリング、立体構成

[教科書・参考書] ゲイル・グリート・ハナ (著) 今竹翠 (翻訳、監修): エレメンツ・オブ・デザイン, 美術出版社 2006 年

[評価方法・基準] 課題期限内提出の有無及び課題目的への達成度、出席日数 4/5 以上が条件 (4 日以上欠席で不可とする)

[履修要件] 必修

[備考] 「デザイン造形実習 I」と「デザイン造形実習 II」を併せて平成 16 年度まで開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

授業科目名：統合デザイン実習 II  
 科目英訳名：Integrated Design Practice II  
 担当教員：渡邊 誠, 小野 健太, 八馬 智, 玉垣 庸一, 佐藤 公信, 原 寛道, 小原 康裕  
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年後期月曜 4,5 限  
 授業コード：T1P007001, T1P007002 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

## 科目区分

2010 年入学生：専門必修 F10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 生活の中にある工業製品を対象に、デザインに関する一連のプロセスを体験する。まず、具体的な製品のデザインを行い、その製品と人を結びつけるためのグラフィックのデザインを行い、その製品を引き立てる空間のデザインを行う。最終的にそれらを統合したプレゼンテーションを行う。なお、本授業は統合デザイン実習 II と連携して進める。

[目的・目標] 工業製品を取り巻く基本的な知識、メディアや空間の果たす役割、表示手法に関する基礎的能力などを習得しながら、自ら問題を見つけて解決するための想像力と創造力を高める。

[授業計画・授業内容]

1. 製品コンセプトの構築
2. デザインアイデア展開
3. デザインチューニング
4. 製品デザインのプレゼンテーションと講評
5. ロゴマークデザイン
6. 製品レンダリング
7. 広告物デザイン
8. グラフィックデザインのプレゼンテーションと講評
9. 基礎空間構成
10. 空間配置計画
11. 展示空間デザイン
12. 空間デザインのプレゼンテーションと講評
13. プレゼンテーション資料・モックアップ制作
14. チュートリアル
15. 最終プレゼンテーションと講評

[キーワード] 製品デザイン, グラフィックデザイン, 空間デザイン

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習 III (p. デザ 8 T1P008001)

[履修要件] 必修

授業科目名：統合デザイン実習 III  
 科目英訳名：Integrated Design Practice III  
 担当教員：渡邊 誠, 小野 健太, 八馬 智, 玉垣 庸一, 佐藤 公信, 原 寛道, 小原 康裕  
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年後期金曜 4,5 限  
 授業コード：T1P008001, T1P008002 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

## 科目区分

2010 年入学生：専門必修 F10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 生活の中にある工業製品を対象に、デザインに関する一連のプロセスを体験する。まず、具体的な製品のデザインを行い、その製品と人を結びつけるためのグラフィックのデザインを行い、その製品を引き立てる空間のデザインを行う。最終的にそれらを統合したプレゼンテーションを行う。なお、本授業は統合デザイン実習 II と連携して進める。

[目的・目標] 工業製品を取り巻く基本的な知識、メディアや空間の果たす役割、表示手法に関する基礎的能力などを習得しながら、自ら問題を見つけて解決するための想像力と創造力を高める。

[授業計画・授業内容]

1. 製品コンセプトの構築
2. デザインアイデア展開
3. デザインチューニング
4. 製品デザインのプレゼンテーションと講評
5. ロゴマークデザイン
6. 製品レンダリング
7. 広告物デザイン
8. グラフィックデザインのプレゼンテーションと講評
9. 基礎空間構成
10. 空間配置計画
11. 展示空間デザイン
12. 空間デザインのプレゼンテーションと講評
13. プレゼンテーション資料・モックアップ制作
14. チュートリアル
15. 最終プレゼンテーションと講評

[キーワード] 製品デザイン, グラフィックデザイン, 空間デザイン

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習 II(*p. デザ* 8 T1P007001)

[履修要件] 必修

T1P009001

授業科目名: デザイン論 II

科目英訳名: Theory of design II

担当教員: 渡邊 誠, 玉垣 庸一, 佐藤 公信

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期火曜 2 限

授業コード: T1P009001

講義室: 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2010 年入学生: 専門必修 F10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザインに関する人・もの・環境と産業の枠組みの基礎概念を学ぶ

[目的・目標] デザインに関わる枠組み・歴史・プロセス・産業の諸要件の涵養を目指し、産業製品の計画に関わる人、製品、環境に関わる諸事象の調査開発に関する知識について理解を深める。

[授業計画・授業内容]

1. 産業とデザイン
2. 企業内デザインとは
3. デザインの領域

4. デザインマネジメント
5. デザインプロモーション
6. 環境をデザインすること
7. 公共的空間におけるデザイン
8. 地域活性化におけるデザインの役割
9. デジタルデータによるコミュニケーション ( 1 )
10. デジタルデータによるコミュニケーション ( 2 )
11. デジタルデータによるコミュニケーション ( 3 )
12. インフラストラクチャーのデザイン
13. サービスデザイン ( 1 )
14. サービスデザイン ( 2 )
15. まとめと試験

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席 ( 毎回出席をチェックする ) 試験

[関連科目] デザイン論 I、デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

T1P010001

授業科目名： デザイン科学 I  
 科目英訳名： Design Science I  
 担当教員： 青木 弘行, 岩永 光一  
 単位数： 2.0 単位  
 授業コード： T1P010001

開講時限等： 1 年後期水曜 3 限  
 講義室： 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2010 年入学生： 専門必修 F10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザインの対象である人間の生活について、人間の生物科学的特性と環境との関係から論述する。また、デザインされた人工物の物理特性や材料生産技術、感性的な特性等について論述する。

[目的・目標] デザインの対象である人工物と人間特性との関係に対する基本的知識を学習する。人間特性に関しては、人間と環境との関わり方の理解とデザインへの応用について考察できる基礎的能力を育成する。人工物に関しては、人工物の物理的特性、生産方法、感性評価等に関する理解とデザインへの応用能力を育成することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザイン科学としての人間科学
2. 人間と生活環境 ( 1 ): 生物学的適応
3. 人間と生活環境 ( 2 ): 文化的適応
4. 生活者としての人間 ( 1 ): 快適性
5. 生活者としての人間 ( 2 ): 人間生活とデザイン
6. 人体の構造と機能 ( 1 ): 人体寸法とデザイン
7. 人体の構造と機能 ( 2 ): 情報処理特性とデザイン
8. デザインの対象としての人工物の捉え方。固有特性と属性
9. 人工物の形態と製造条件
10. 人工物の経済的特性
11. 人工物と環境問題
12. 人工物の感性・感覚的特性
13. 人工物の物理・化学的特性

14. 先端技術と人工物開発

15. テスト

[キーワード] 人間行動、人工物、観察、計測、感覚的特性、先端技術

[教科書・参考書] 「工業デザインのための材料知識」, 岩井, 青木著, 日刊工業新聞社 / その他は授業時に指示する。

[評価方法・基準] 出席数、レポートの提出の内容、テストによる授業の理解度

[関連科目] デザイン論 I、デザイン論 II、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

[備考] 平成 15 年度まで開講されていた「材料計画論 [T1F008001]」の読み替え科目である。

T1Y016001

授業科目名: 造形演習

科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.)

担当教員: 植田 憲

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1Y016001

開講時限等: 1 年前期火曜 5 限

講義室: 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2010 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科(先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科(先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学 = ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多面的な観察能力を養う。(3)多様な解の存在を認識する。(4)プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の4つの課題のひとつひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第1課題:「鉛筆による精密描写」
3. 第1課題の演習
4. 第1課題の講評
5. 第2課題:「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第2課題の演習
7. 第2課題の講評
8. 中間発表会
9. 第3課題:「卓上ランプシェードの制作」
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の講評
12. 第4課題:「飛行体の造形」
13. 第4課題の演習
14. 第4課題の講評
15. 展示会、まとめ、全体講評

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1Y016002

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：田内 隆利 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016002	開講時限等：1 年前期火曜 5 限 講義室：創造工学センター
--	-----------------------------------

#### 科目区分

2010 年入学生：専門基礎必修 E10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1N:建築学科 , T1P:デザイン学科 ) ,  
 専門基礎選択必修 E20 ( T1E:都市環境システム学科 , T1L:メディカルシステム工学科 , T1T:画像科学科 ,  
 T1U:情報画像学科 ) , 専門基礎選択 E30 ( T1KF:ナノサイエンス学科 ( 先進科学 ) , T1Q:機械工学科 ,  
 T1S:ナノサイエンス学科 ) , 専門選択科目 F36 ( T1M:共生応用化学科 )

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による手の描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の演習・講評
5. 第 2 課題：「三面図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習・講評
7. 第 3 課題：「輪ゴム動力車の制作」
8. 第 3 課題の演習：調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
9. 第 3 課題の演習：制作
10. 第 3 課題の発表
11. 第 4 課題：「紙サンダルの制作」
12. 第 4 課題の演習：調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
13. 第 4 課題の演習：制作
14. 第 4 課題の発表
15. 展示会及び講評

[評価方法・基準] 出席状況、制作物やプレゼンテーションのクオリティを総合的にみて評価する

[備考] 創造工学センターはサンダルやヒールの高い靴厳禁。

T1Y016003

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：玉垣 庸一, 下村 義弘 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016003	開講時限等：1 年前期火曜 5 限 講義室：工 2-アトリエ ( 2-601 )
---	---

#### 科目区分

2010 年入学生：専門基礎必修 E10 ( T1KE:デザイン学科 ( 先進科学 ) , T1N:建築学科 , T1P:デザイン学科 ) ,  
 専門基礎選択必修 E20 ( T1E:都市環境システム学科 , T1L:メディカルシステム工学科 , T1T:画像科学科 ,  
 T1U:情報画像学科 ) , 専門基礎選択 E30 ( T1KF:ナノサイエンス学科 ( 先進科学 ) , T1Q:機械工学科 ,  
 T1S:ナノサイエンス学科 ) , 専門選択科目 F36 ( T1M:共生応用化学科 )

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1Y016004

授業科目名：造形演習	
科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)	
担当教員：福川 裕一	
単位数：2.0 単位	開講時限等：1 年前期火曜 5 限
授業コード：T1Y016004	講義室：工 15 号棟 110 教室

科目区分

2010 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1Y016005

授業科目名：造形演習	
科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)	
担当教員：UEDA EDILSON SHINDI	
単位数：2.0 単位	開講時限等：1 年前期火曜 5 限
授業コード：T1Y016005	講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分

2010 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1KE:デザイン学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KF:ナノサイエンス学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 60

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学 = ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の講評
5. 第 2 課題：「展開図に基づいた立体物の描写」

6. 第 2 課題の演習
7. 第 2 課題の講評
8. 中間発表会
9. 第 3 課題：「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、自由に形を創ろう
10. 第 3 課題の演習
11. 第 3 課題の講評
12. 第 4 課題：「太陽電池の新しい取り入れ方」
13. 第 4 課題の演習
14. 第 4 課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。出席：40% 作品・プレゼンテーション:60%

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1P011001

授業科目名： デザイン科学 II

科目英訳名： Design Science II

担当教員： 勝浦 哲夫, 日比野 治雄

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2 年前期水曜 3 限

授業コード： T1P011001

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2009 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90 名程度

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインを行う上で欠かすことのできない人間の構造・生理・心理について、その基本的知識と応用手法を学習する。特に人間工学、心理学の観点からデザインする能力を養成する。

[目的・目標] デザインに関わる諸問題を考察する場合には、人間について十分な知識を有することが必須条件である。そこで、人間を扱うための基礎となる人間工学的観点および心理学的視点の涵養を目指し、その初歩から応用までを概観する。真の意味で人間に優しいデザインを考えることのできる能力を習得することが目標である。

[授業計画・授業内容] 人間にとって使いやすい機器をデザインするためには人間の生理的・心理的特性の理解が必要である。本授業では身体運動機能に関する人間工学及びデザイン心理学に関する入門的な内容を中心に講義を行う。

1. 心理学の視点からデザインを考える - デザイン心理学とは
2. 人間の知覚特性
3. 視知覚に関わる問題 ( 1 )
4. 視知覚に関わる問題 ( 2 )
5. 視知覚以外の知覚に関わる問題
6. デザイン心理学の応用的側面
7. 前半のまとめと中間試験
8. 人間工学とはなにか
9. 手の働きと製品デザイン
10. 製品人間工学の事例 ( 1 )
11. 製品人間工学の事例 ( 2 )
12. 筋の構造と筋収縮 ( 1 )

13. 筋の構造と筋収縮 ( 2 )
14. 筋活動の測定と評価
15. 後半のまとめと期末試験

[キーワード] 人間, 人間工学, 身体構造, 生理機能, 心理学, 知覚

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する。

[評価方法・基準] 出席状況, 中間試験, 期末試験の成績等を総合的に評価する。

[関連科目] デザイン論 I、デザイン論 II、デザイン科学 I

[履修要件] 必修

T1P012001

授業科目名: 立体デザイン造形	
科目英訳名: Solid Design Forming	
担当教員: 久保 光徳, 樋口 孝之, UEDA EDILSON SHINDI	
単位数: 3.0 単位	開講時限等: 2 年前期金曜 3 限 / 2 年前期金曜 4 限前半
授業コード: T1P012001, T1P012002	講義室: 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生: 専門選択科目 F36 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 演習

[受入人数] 60

[授業概要] 基礎的な立体構成のエクササイズを多数行いながら習得する。

[目的・目標] デザインにおける立体造形力の基礎となるモデリング技術、立体構成力を身につけること、また、材料特性を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 第 1 課題: 曲面の構成をもつ量塊の造形 (樋口 孝之) 与えられた条件にもとづき, 3 種類の量塊の造形物を制作する。ひとつは楕円形状の上面を有する量塊, ひとつは対称形の六面体の隅を加工した量塊, ひとつは曲線で囲まれた面を移動させて形成した形状を加工した量塊である。スケッチによる立体形状のスタディを行ないながら形状を確定し, スタイロフォームを切削して立体物を制作する。面の構成の基礎的理解, 単純な形状を操作するなかでの造形発想を習得する。第 2 課題: 「膨らみと窪み」をテーマとして立体造形の制作 (Ueda Edilson) 円柱、円錐、球、立方体をネットで包みその膨らみと窪みがどこからみてもダイナミックになるように表現する。上のものを粘土使い、二倍の大きさにして制作する。目的: 内部を構成している形を理解し、外部から見たものを表現する。曲面ができる成り立ちを知る。第 3 課題: 段ボールスツールの制作 (久保 光徳) 与えられた条件にもとづき, 3 種類の量塊の造形物を制作する。ひとつは楕円形状の上面を有する量塊, ひとつは対称形の六面体の隅を加工した量塊, ひとつは曲線で囲まれた面を移動させて形成した形状を加工した量塊である。スケッチによる立体形状のスタディを行ないながら形状を確定し, スタイロフォームを切削して立体物を制作する。面の構成の基礎的理解, 単純な形状を操作するなかでの造形発想を習得する。

1. 第 1 課題: 曲面の構成をもつ量塊の造形 (樋口)
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. プレゼン、講評
6. 第 2 課題: 「膨らみと窪み」をテーマとして立体造形の制作 (UEDA E.)
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. プレゼン、講評
11. 第 3 課題: 段ボールスツールの制作 (久保)
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. プレゼン、講評

[キーワード] 立体構成、立体把握、モデリング

[教科書・参考書] ゲイル・グリート・ハナ(著)、今竹翠(翻訳、監修): エレメンツ・オブ・デザイン, 美術出版社  
2006年

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品(構成力、完成度、アイデア)・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。出席:40% 作品・プレゼンテーション:60%

[関連科目]

T1P013001

授業科目名: 形の工学

(千葉工大開放科目)

科目英訳名: Engineering of Form and Shape

担当教員: 久保 光徳

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 2 年前期水曜 1 限

授業コード: T1P013001

講義室: 創造工学 2F

科目区分

2009 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実験

[受入人数] 40 (レーザ加工機を使用した作成と実験も実施するため 40 名を限度とする)

[受講対象] デザイン工学科意匠系 2 年次学生

[授業概要] 材料力学および構造力学の初等的な考え方・手法を用いて、モノに見られる「形と力」の関係を基盤とした「ものづくり」における工学的感覚について考えさせ、体験させる。そのため、講義形式のみではなく適宜必要に応じて小演習・小実験を組み込んで行く。

[目的・目標] 形が有する意味とその特質を工学的な視点から理解する。形の解釈に際しては材料力学・構造力学・機構学を基盤に据え、?材料力学からは基本単位形態の力学的特性、?構造力学からは部分と全体の力学的関係、?機構学からは動的特性との関連について理解する。

[授業計画・授業内容] 講義中心に小演習を行いながら「形と力」の関係を体得させることを目的として以下のような授業内容を計画している。また、毎週宿題を課し、授業内容の理解を深める。

1. 形と力の関係に対する直感的導入: 長いヒモと短いヒモ; 太い柱と細い柱; 宿題「長い柱と短い柱との違いについて」
2. 外力と内力: 力を伝えるものとその変形: 伸び, 縮み, 曲げ, せん断; 宿題「イスにかかる“力”について」
3. 引張に対する形: 紙帯に対する検討: E と ; 懸垂曲線; テンション構造; 宿題「伸びるということの科学的説明」
4. 圧縮に耐える形: 平等強さの形; 宿題「身の回りにおける平等強さの形について」
5. 座屈の形: 身近な不安定現象; 宿題「身の回りの座屈について」
6. 曲げと圧縮に耐える形: 二つのアーチ; 境界条件と形; トラスとラーメン; 宿題「境界条件に影響された形について」
7. 円筒形とシェル構造の形: 円筒およびシェル構造; シャボン膜構造; 膜と板; 宿題「シェルを活かした形について」
8. CADによる単純構造の作成とFEMによる構造解析1 - 紙引きバトル? グループ対抗とし授業時間外にも実施
9. CADによる単純構造の作成とFEMによる構造解析2 - 紙引きバトル? グループ対抗とし授業時間外にも実施
10. 自然物の形と力: 枝・竹・骨の形に対する解釈; 宿題「最も自然に形と力のバランスがとれていると思われる形について」
11. 人工物の形と力: ハニカムとFRP; 宿題「ハニカム構造を利用した形について」
12. 動作するモノの制作: CAD/CAE/CAMを用いた簡易構造体の制作1 グループごとに、授業時間外にも実施
13. 動作するモノの制作: CAD/CAE/CAMを用いた簡易構造体の制作2 グループごとに、授業時間外にも実施
14. 形に見られる力学性: グループごとに提出された制作物の説明と相互評価
15. 全体を通して「形と力」の関係を講述する。

16. 最終試験は実施しない。

[キーワード] 形と力, 構造, 機構

[教科書・参考書] 授業中に紹介する。

[評価方法・基準] すべての宿題, 小レポート, および実験・制作の結果に対して評価を行い, その総点をもって成績とする。

[関連科目] 物理学 B 力学入門

[履修要件] 特になし。

[備考] 授業の進行に伴い, 演習色の強い内容は授業時間以外の枠で実施する。平成16年度まで開講されていた「造形力学論」の読み替え科目である。

T1P014001

授業科目名: 工業デザイン I

科目英訳名:

担当教員: (久米 寿明)

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 2 年前期木曜 4 限後半 / 2 年前期木曜 5 限

授業コード: T1P014001, T1P014002

講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2009 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 具体的な製品のデザイン演習を通じ、プロダクトデザインの実践的業務プロセス全般を習得。

[目的・目標] 工業デザイン I としてプロダクトデザイナーとしての必要な知識や表現方法の基礎を習得し、ターゲット設定やコンセプト立案といった商品性視点や実際のモノづくりにおける量産性視点でのデザイン要求も踏まえながら、プロダクトデザインの重要性や楽しさを学ぶ。

[授業計画・授業内容] 基本的に毎回課題の個人発表と意見交換を行い、プレゼンテーション能力とコミュニケーション力の向上を目指す。

1. ガイダンス 「課題テーマと事例紹介」
2. ターゲット設定 「欲しがる人、欲しがるモノ」
3. コンセプトの構築 「コンセプトの魅力」
4. アイデアスケッチ 「カタチのパフォーマンス」
5. イメージスケッチ 「カタチのアフォーダンス」
6. コンストラクション 「機能割付け・サイズ・部品レイアウト」
7. スタイリング 「モチーフ・デフォルメ」
8. レンダリング 「線の強弱、質感の表現」
9. インターフェース 「コンテンツの表現、使用性」
10. コンテキスト 「デザインの関係性 ネーミングから宣伝販促まで」
11. モック作成
12. 中間プレゼンテーション
13. リファイン・コンセプトの決定
14. リファイン・デザインの作成
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 商品性、市場性、独創性、誘発、カタチ、発見

[教科書・参考書] 「デザインの生態学」 深沢直人 東京書籍 「デザインのデザイン」 原研哉 岩波書店

[評価方法・基準] 課題提出およびプレゼンテーション

T1P015001

授業科目名： トランスポーターデザイン I  
 科目英訳名：  
 担当教員： 小原 康裕  
 単位数： 3.0 単位  
 開講時限等： 2 年前期月曜 4 限後半 / 2 年前期月曜 5 限  
 授業コード： T1P015001, T1P015002  
 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分

2009 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 30 人

[受講対象] 工学部他学科生 履修可

[授業概要] 交通機器に係わるトランスポーター機器、特に自動車の造形演習を通してデザインの基礎・プロセスを学ぶ。

[目的・目標] 以下のプロセスを通してデザインの基礎・プロセスを学び動機づけを行う。1) スケッチ・レンダリング技法の基礎と習熟 2) 造形モチーフからアイディアの発想・展開 3) コンセプトとアイディア展開 4) モデリングプロセスの基礎 5) プレゼンテーション

[授業計画・授業内容] デザインの基礎技法(スケッチ・レンダリング・モデリング)とプロセスの演習を通して、トランスポーターデザイン動機づけを行う。毎回演習の宿題により予習

1. 自動車の実車を鉛筆で写生描画
2. 雑誌・写真の自動車を模写
3. 自動車の基礎的表示技法・図法の講義
4. 雑誌・写真の自動車を模写
5. 造形モチーフをベースとするアイディアの集中展開
6. 同上
7. 選択した造形モチーフによる自動車のアイディアスケッチ
8. アイディアスケッチの方向付け
9. ケッチの PC ソフトによる修正・色づけなどの基礎技法
10. 同上
11. スケッチのレンダリング
12. レンダリングの縮尺外形製図 (1/10)
13. 発砲素材によるモデリング
14. 夏休みを利用したモデリング
15. 発砲素材によるモデリング
16. 合同評価会 (プレゼンテーション)

[キーワード] 基礎自動車デザイン、モチーフとスタイル、デザインプロセス

[教科書・参考書] 自動車表示図法 (小冊子) 参考スケッチ・レンダリング

[評価方法・基準] 出席率 (8 割) 課題スケッチモデルプレゼンテーション

[関連科目] 造形演習・表示論・基礎デザイン・製品デザイン論

[履修要件] プロデザイナーを目指す意欲のある学生

T1P016001

授業科目名： 環境デザイン I  
 科目英訳名：  
 担当教員： (藤本 香), (中西 利恵), 佐藤 公信  
 単位数： 3.0 単位  
 開講時限等： 2 年前期金曜 4 限後半 / 2 年前期金曜 5 限  
 授業コード： T1P016001, T1P016002  
 講義室： 工 2-アトリエ (2-601)

## 科目区分

2009 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 40 名程度

[受講対象] 環境デザイン 1 以降を受講希望するものは、必ず単位を取得しなくてはならない。

[授業概要] 様々な環境の中で、意図する空間のイメージを実際のデザイン提案として具体化するための方法について、空間計画の基礎、および平面表示技法をあわせて演習を行う。

[目的・目標] 空間デザインを行うために必要な基礎を講義・演習を通して理解し、的確な空間表現技法を習得する。講義では、各種技法の理論的側面を、演習では、各種図面の描き方及び透視図法の着彩技法までを体系的に学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. スケッチパース 正確なスケール感のあるスケッチパース 1
2. スケッチパース 正確なスケール感のあるスケッチパース 2
3. インテリアスペースデザイン インテリアデザイン概要
4. スペースレイアウト WS 机椅子などを利用したスケール感の体得と基本図面作成
5. インテリアスペースデザイン 設計指導 1
6. インテリアスペースデザイン 設計指導 2
7. インテリアスペースデザイン 模型・模型写真・3DCAD 概要 ポリウム模型作成
8. インテリアスペースデザイン 設計指導 3
9. インテリアスペースデザイン 作業個別相談
10. プレゼンテーション 設計プレゼン・講評
11. フィニッシュパース ラインドロー：上記デザインのパースペクティブ作成
12. フィニッシュパース 着彩：上記デザインのパースペクティブ作成 1
13. フィニッシュパース 着彩：上記デザインのパースペクティブ作成 2
14. フィニッシュパース 着彩：上記デザインのパースペクティブ作成 3
15. 合評会 図面・パース・ポリウム模型を元にしたプレゼン

[キーワード] インテリアデザイン、スペースデザイン、リビングデザイン

[教科書・参考書] 参考資料は授業中に配布。第 1 回目の授業から演習作業を行うので、「PM パッド、筆記用具、三角スケール、三角定規 2 つ、直定規」は必ず持参のこと。

[評価方法・基準] 1/3 以上の欠席・課題が一つでも不足の場合は不可。30 分以上の遅刻は欠席と見なす。

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「環境デザイン製図演習」の読み替え科目である。「生活環境デザイン I」の読み替え科目である。

T1P017001

授業科目名：コミュニケーションデザイン I	
科目英訳名：Communication Design I	
担当教員：玉垣 庸一, (塩谷 徹), (西田 幸生)	
単位数：3.0 単位	開講時限等：2 年前期水曜 4,5 限
授業コード：T1P017001, T1P017002	講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分

2009 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 基礎的なデザイン課題制作を通じて、後のセメスターに展開される授業への準備、動機付けを行う。最初の 5 週は文字デザインの基礎 (非常勤講師 塩谷徹先生)、続く 5 週は文字のデジタルデータ化による動画制作 (玉垣)、続く 5 週は自分のシンボルマーク制作 (非常勤講師 西田幸生先生) についての講義および実技指導を行う。

[目的・目標] コミュニケーションデザインの基礎的な内容を理解し、基礎的な表現力を身につける。具体的には、1) 文字デザインの基礎的な表現技法を修得する。2) デジタルデータ化の基礎的な技法を修得する。3) 自分のシンボルマーク制作を通じて、グラフィックデザイン制作のプロセスを修得する。キーワードをあげておくので各自で調べておき (予習)、また授業内で生じた新たな疑問についても調べておく (復習) こと。

[授業計画・授業内容]

1. 文字デザインの基礎と第 1 課題の説明
2. 制作 1

3. 制作 2
4. 制作 3
5. プレゼンテーション
6. デジタルデータ化の基礎と第 2 課題の説明
7. 制作 1
8. 制作 2
9. 制作 3
10. プレゼンテーション
11. アイデアの視覚化 第 3 課題の説明
12. ラフの絞り込み
13. カンプ展開
14. アプリケーション展開
15. プレゼンテーション、合評

[キーワード] 文字デザイン, 書体, プログラミング, シンボルマーク

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題提出

[備考] 平成 19 年度まで開講されていた「メディアデザイン I」の読替科目

T1P018001

授業科目名: デザイン科学演習 I

科目英訳名:

担当教員: 青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 岩永 光一, 石橋 圭太

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 2 年前期月曜 1 限後半 / 2 年前期月曜 2 限

授業コード: T1P018001, T1P018002

講義室: 工 2-アトリエ (2-601)

#### 科目区分

2009 年入学生: 専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 本授業では、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の 4 つのデザイン科学分野について演習を行う。演習では、各分野が設定したテーマに関する実験や実習を行い、その内容と成果をまとめたプレゼンテーションを行う。

[目的・目標] 材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の 4 つのデザイン科学分野について、デザインにおける基本的役割を理解するとともに、デザインにおける科学的アプローチの基礎的な知識と手法を修得することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 受講者を 4 グループに分けて実施する。各グループは、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の 4 つの演習をグループ単位で 3 週間ずつ順次受講する。4 つの演習の順序はグループによって異なる。第 1 週は、グループ分け、各演習の課題の説明を行い、第 14・15 週はグループごとに 4 つの演習内容・成果の発表および質疑応答を行う。

1. ガイダンス
2. 材料計画演習 (1)
3. 材料計画演習 (2)
4. 材料計画演習 (3)
5. 人間生活工学演習 (1)
6. 人間生活工学演習 (2)
7. 人間生活工学演習 (3)
8. デザイン心理学演習 (1)
9. デザイン心理学演習 (2)
10. デザイン心理学演習 (3)

11. 人間情報科学演習 ( 1 ): ヒューマンインタフェース実験入門
12. 人間情報科学演習 ( 2 ): ヒューマンインタフェース実験入門
13. 人間情報科学演習 ( 3 ): ヒューマンインタフェース実験入門
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

[評価方法・基準] 各演習課題に関するレポート、プレゼンテーションによって評価する。

[関連科目] デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] デザイン科学演習 II を履修するためには、この科目を履修すること。

[備考] 大学院への進学を予定する学生には、履修を強く推奨する。

T1P019001

授業科目名：工業デザイン II

科目英訳名：

担当教員：渡邊 誠, (大木 雅之), (池田 稔), (須曾 公士), (大澤 隆男)

単位数：3.0 単位

開講時限等：2 年後期木曜 4 限後半 / 2 年後期木曜 5 限

授業コード：T1P019001, T1P019002

講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生：専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 演習

[受入人数] 40

[目的・目標] 工業デザイン II はスタイリングに特化した演習であり、新しく考えた機能や性能あるいは様々な特徴を確実に形として成り立たせ、かつ美しく整ったデザインを行う。さらに、このデザインの機能評価を行い、デザインコンセプトとの達成度について評価する。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. デザインコンセプト
3. シェイプコンセプト
4. 機構・構造把握とデザイン展開 1
5. 機構・構造把握とデザイン展開 2
6. 見学会
7. シェイプチューニング 1
8. シェイプチューニング 2
9. レンダリング
10. モデリング
11. 機能評価 1
12. 機能評価 2
13. 機能評価 3
14. プレゼンテーション準備
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 工業デザイン, スタイリング, 機能評価

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 最終プレゼンテーションで評価

[関連科目] 工業デザイン I

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「製品デザイン演習 I」の読み替え科目である。

授業科目名：トランスポーターデザイン II	
科目英訳名：	
担当教員：(野村 薫), 八馬 智	
単位数：3.0 単位	開講時限等: 2 年後期木曜 3 限 / 2 年後期木曜 4 限前半
授業コード：T1P020001, T1P020002	講義室：

## 科目区分

2009 年入学生: 専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 20 人&amp;#12316;30 人

[受講対象] 工学部他学科生 履修可

[授業概要] 人の生活移動機器に係わる乗り物（動具）の課題を通して、人・もの・環境の総合調和技術としての実践的なデザイン技法・工程を学び社会に貢献するプロデザイナーの育成をはかる。非常勤講師として経験豊かな企業デザイナーを招き実践的指導を行う。

[目的・目標] 自動車を中心に機能部品やレイアウトを含めたコンセプトワークとデザイン展開の修得。

[授業計画・授業内容] 自動車デザインを中心に、デザインの基本的なプロセスを学ぶ。担当教員と非常勤講師の指導のもと、実践的なコンセプトとパッケージング（主要部品や乗員のレイアウト）の関係を各人のアイデアに即して学習する。

1. ガイダンス・課題説明デザイン開発の事例紹介
2. テーマの設定作品事例紹介
3. コンセプトに必要な 5 W 1 H の資料収集
4. パッケージング・レイアウト
5. パッケージング・レイアウト
6. コンセプトの設定
7. アイディアスケッチ
8. アイディアスケッチ
9. アイディアスケッチ
10. レンダリング
11. レンダリング
12. CG レンダリング
13. モデル図
14. クレーモデリング実習（メーカーにて）
15. クレーモデリング実習
16. PC スライド & モデル・パネルによるプレゼンテーション
17. プレゼンテーション合同評価会

[キーワード] パッケージング、形態と機能、コンセプト

[教科書・参考書] スケッチなど配布資料自動車の基本計画とデザイン 齊藤・山中監修 山海堂

[評価方法・基準] 各課題作品モデルコンセプトパネルプレゼンテーション

[関連科目] 製品デザイン論

[履修要件] トランスポーターデザインに興味がありプロデザイナーを目指す学生トランスポーターデザイン I

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「製品デザイン演習 II」の読み替え科目である。

T1P021001

授業科目名：環境デザイン II  
 科目英訳名：  
 担当教員：佐藤 公信  
 単位数：3.0 単位  
 開講時限等：2 年後期金曜 3 限 / 2 年後期金曜 4 限前半  
 授業コード：T1P021001, T1P021002  
 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分

2009 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 50 名程度

[授業概要] 空間の演出手法に関連する、基本となる知識、技法について課題を通して考察する。具体的な空間を想定し、室内・展示空間の計画・演出を行うための実際の計画に即したプロセスをとりながら空間デザインを行う。

[目的・目標] 対象となる空間に臨場する受け手に対し、効果的な演出手法を通して、計画上の構成要素について考察する。また、課題では、具体的な室内・展示空間デザインに関して造詣を深める。

[授業計画・授業内容] 課題概要課題 01 空間演出デザイン「フレームで切り取られる空間デザイン」ー空間を斬る！ - 課題 02 商空間デザイン Show Window Display Design 課題 03 テーマ展示企画・デザイン「映画プロモーションの企画展示」

1. 環境デザイン II ガイダンス
2. 課題 00 プレゼンテーション / 講評
3. 展示デザインの考え方
4. 「空間演出デザイン」 TBS ジェネラルコーディネータ 榎 芳栄氏
5. 課題 01 プレゼンテーション / 講評
6. 「商空間デザイン Show Window Display Design」
7. テーマ理解のための調査 / 報告
8. 課題 02 プレゼンテーション / 講評
9. 「テーマ展示企画・デザイン」
10. 企画書に基づくアイデアチェック / 相談
11. アイデアチェック / 相談
12. スケールモデルチェック / 相談
13. スケールモデルチェック / 相談
14. 課題 3 プレゼンテーション / 講評
15. まとめ 課題 3 プレゼンテーション / 講評

[キーワード] ディスプレイデザイン, 空間演出, 展示企画

[教科書・参考書] 授業において指示する。

[評価方法・基準] 出席回数と、3 つの各課題による成果物を評価する。

[関連科目] 環境デザイン I, 環境デザイン III, 環境デザイン IV

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「環境デザイン表示論演習」の読み替え科目である。「生活環境デザイン II」の読み替え科目である。

T1P022001

授業科目名：コミュニケーションデザイン II  
 科目英訳名：Communication Design II  
 担当教員：(海保 透), (木村 博之), (児山 啓一)  
 単位数：3.0 単位  
 開講時限等：2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限  
 授業コード：T1P022001, T1P022002  
 講義室：工 2 号棟 103 教室  
 (授業時間 15:15 ~ 17:40)

## 科目区分

2009 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 最初の5週はエディトリアルデザインの基礎と展開(非常勤講師 海保透先生)、次の5週はインフォメーショングラフィックスの基礎と展開(非常勤講師 木村博之先生)、続く5週はサインデザインの基礎と展開(児山啓一先生)の講義ならびに実技指導を行う。

[目的・目標] 視覚情報が書籍、新聞紙面、公共サインなどの異なった表現媒体においてどのように扱われるのかを考察する。それらのメディアに適した表現技術の体得を到達目標とする。キーワードをあげておくので各自で調べておく(予習)、また授業内で生じた新たな疑問についても調べておく(復習)こと。

[授業計画・授業内容]

1. 講義1 = 概要1 レイアウトシステムの基本設計: 事例の紹介・解説 課題-1(基礎編)説明
2. 講義2 = 概要2 文字組の基礎: 事例の紹介・解説 制作1 = 課題-1 実習作業(内容検討・展開・報告)
3. 制作2 = 課題-1 提出+全体的な検証・講評 課題-2(応用編)説明
4. 制作3 = 課題-2 実習作業(内容検討・展開・報告)
5. プレゼンテーション = 課題-2 提出+講評・総括
6. 課題説明
7. アイデア展開演習1
8. アイデア展開演習2
9. アイデア展開演習3
10. プレゼンテーションと合評
11. 課題説明
12. 事例調査と検討事項の絞り込み
13. デザイン改良案の検討
14. 表現要素の検証
15. プレゼンテーションと合評

[キーワード] エディトリアル、インフォメーショングラフィックス、公共サイン

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題提出

[備考] 平成19年度まで開講されていた「メディアデザインII」の読替科目

T1P023001

授業科目名: デザイン科学演習 II

科目英訳名:

担当教員: 青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 岩永 光一, 石橋 圭太

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 2年後期金曜1限後半 / 2年後期金曜2限

授業コード: T1P023001, T1P023002

講義室: 工2-アトリエ(2-601)

科目区分

2009年入学生: 専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 本授業では、材料計画・意匠形態学、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つのデザイン科学分野について演習を行う。演習では、各分野が設定したテーマに関する実験や実習を行う。

[目的・目標] 材料計画・意匠形態学、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つのデザイン科学分野について、デザインにおける基本的役割を理解するとともに、デザインにおける科学的アプローチの基礎的な知識と手法を修得することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 材料計画・意匠形態学、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つの演習を、各4週間ずつ順次受講する。

1. 人間生活工学演習(1)
2. 人間生活工学演習(2)
3. 人間生活工学演習(3)
4. 人間生活工学演習(4)

5. 材料計画・意匠形態学演習(1)
6. 材料計画・意匠形態学演習(2)
7. 材料計画・意匠形態学演習(3)
8. 材料計画・意匠形態学演習(4)
9. デザイン心理学演習(1)
10. デザイン心理学演習(2)
11. デザイン心理学演習(3)
12. デザイン心理学演習(4)
13. 人間情報科学演習(1)
14. 人間情報科学演習(2)
15. 人間情報科学演習(3)
16. 人間情報科学演習(4)

[評価方法・基準] 各演習課題に関するレポート、プレゼンテーション、出席状況等によって評価する。4つの全ての課題について合格の評価を得ること。

[関連科目] デザイン科学 I、デザイン科学 II、デザイン科学演習 I

[履修要件] デザイン科学演習 III を履修するためには、この科目を履修すること。

[備考] 大学院への進学を予定する学生には、履修を強く推奨する。

T1P024001

授業科目名：デザインの展望

科目英訳名：

担当教員：佐藤 公信

単位数：2.0 単位

授業コード：T1P024001

開講時限等：2 年後期火曜 5 限

講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2009 年入学生：専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100

[授業概要] デザインの様々な領域のトピックを紹介していく。以下は前年の内容である。

[目的・目標] デザインの現場における諸問題や優れた事例などを紹介し、デザインの可能性について造詣を深める。

[授業計画・授業内容] 各トピックについて、外部から講師を迎え講義を行うため、詳細なスケジュールについては、工学部 2 号棟 1 F の掲示を参照のこと。

1. ガイダンス
2. (有)レイデザイン 垂水茂喜氏
3. (株)乃村工藝社 山田竜太氏
4. Junio Design 橋本 潤氏
5. THINK CRAFT 大谷未起生氏
6. 特許庁 小林佑二氏
7. (株)スズキデザイン 林田 崇氏
8. 三菱電機(株) 泉福 剛氏
9. (有)ツナグデザイン 根津孝太氏
10. (株)東芝 井戸健二氏
11. (株)バンダイナムコゲームス 渡邊祐介氏
12. ソニー(株) 大場晴夫氏
13. パナソニック電工(株) 未定
14. J R 西日本 大森正樹氏
15. まとめ

[キーワード] デザイン, 領域, 仕事, 社会

[教科書・参考書] 授業の中で適宜指示する。

[評価方法・基準] 出席回数、毎回講義の後に提出されたレポートを評価する。

T1P025001

授業科目名： ヒューマンインタフェース論

科目英訳名：

担当教員： 岩永 光一, 石橋 圭太

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1P025001

開講時限等： 2 年後期水曜 2 限

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2009 年入学生： 専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 本科目では、人間と道具・システムとの界面を構成するヒューマンインタフェースについて、そのデザインにおいて考慮すべき人間特性を、生理、形態、心理の視点から解説する。また、ヒューマンインタフェースのデザインプロセスと手法、ヒューマンインタフェース研究の現状についても解説を行う。

[目的・目標] ヒューマンインタフェースの成り立ち、現状、デザインにおける人間特性への配慮の重要性を理解するとともに、ヒューマンインタフェースデザインの実践に必要な基本的な知識の獲得を目指す。

[授業計画・授業内容]

1. ヒューマンインタフェースの成り立ち：人間要素と人工物要素
2. ヒューマンインタフェースの分類と特徴：物理的インタフェースと認知的インタフェース
3. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 ( 1 )：視覚 1
4. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 ( 2 )：視覚 2
5. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 ( 3 )：聴覚 1
6. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 ( 3 )：聴覚 2
7. ヒューマンインタフェースにおいて考慮すべき人間特性 ( 4 )：体性感覚
8. ヒューマンインタフェース研究のトピックス ( 1 )
9. ヒューマンインタフェース研究のトピックス ( 2 )
10. 中間まとめと試験
11. VDT 作業におけるヒューマンインタフェース (1)：操作系インタフェース
12. VDT 作業におけるヒューマンインタフェース (2)：表示系インタフェース
13. VDT 作業におけるヒューマンインタフェース (3)：マルチユーザインタフェース
14. 実社会における HCI(Human Computer Interaction)
15. ヒューマンインタフェースの評価技法

[キーワード] ヒューマンインタフェース, 人間特性, デザイン

[教科書・参考書] 授業中に指示する。

[評価方法・基準] 試験およびレポートの成績の平均点によって評価する

[関連科目] デザイン科学 I、デザイン科学 II

T1P026001

授業科目名： デザイン材料

科目英訳名：

担当教員： 青木 弘行, 寺内 文雄

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1P026001

開講時限等： 2 年後期水曜 3 限

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2009 年入学生： 専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義

[受講対象] デザイン学科 2 年生

[授業概要] デザインと技術開発との関連を基盤に据え、各種デザイン材料に要求される内容を体系的に理解させる。また材料計画の視点に立脚して、感性情報と材料の関係や環境配慮、最新の材料開発の動向に関する内容について論述する。

[目的・目標] 一般目標：デザイン材料に関する基礎的な素養を身につける。達成目標：(1) 各種材料の特性を体系的に理解する、(2) 感性情報と材料の関係を理解する、(3) 材料利用や材料開発の動向を理解する。

[授業計画・授業内容]

1. プラスチック材料
2. プラスチック材料
3. プラスチック材料
4. プラスチック材料
5. 金属材料
6. 金属材料
7. セラミック材料
8. 木材と木質材料
9. 木材と木質材料
10. 木材と木質材料
11. 先端材料と材料利用の動向
12. 感性情報処理
13. 環境配慮型材料
14. 材料開発、材料関連技術の動向と方向性
15. まとめと試験

[教科書・参考書] 「工業デザインのための材料知識」, 岩井, 青木著, 日刊工業新聞社 / その他は授業時に指示する。

[評価方法・基準] 出席数、レポートの提出の内容、テストによる授業の理解度

[関連科目] デザイン科学 I

[備考] 不定期に授業の理解度を測るための小テストを実施する

T1P027001

授業科目名： デザイン文化論

〔学部・放送大学・千葉工大開放科目〕

科目英訳名：

担当教員： 鈴木 直人, 植田 憲

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2 年後期火曜 2 限

授業コード： T1P027001

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2009 年入学生： 専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインが人類社会の生活文化形成に果たしてきた諸相を、歴史的ならびに国内外の具体的事例に基づきながら検討する。また、今日的な具体的課題と連動させながら、デザイン実践のなかで堅持していくべき生活文化創生の理念・哲学について考察する。

[目的・目標] デザインに携わる者には、生活の「あるべき姿」をいかに描くかがきわめて重要である。本講義においては、受講生に、生活文化の「これまで」と「いま」の諸相の把握・解析を通して、生活の「あるべき姿」を構築するための視座を提起し、その実現に向けてのデザイン活動の認識をより明確に出来る知識を習得することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 前半は、生活文化創生のためのデザインの基礎知識を、後半は、その基礎知識が実際に生活の『あるべき姿』を構築して事例を通して、総合的にデザイン文化の知識を習得出来るよう座学を中心に構成されている。

1. 文化としてのデザインの今日的課題～「人心の華」としてのデザイン

2. 生活用具のデザイン～プリコラージュ
3. 生活用具のデザイン～一物全体活用
4. 生活用具のデザイン～椀、一器多用
5. 生活用具のデザイン～資源循環
6. 生活文化の構造～結界・ケとハレ
7. 結界・ハレとケ概念と生活空間デザインの実例
8. 地域の生活づくりデザイン～ものづくりを通じた生き甲斐づくり
9. 地域の生活づくりデザイン～内発的地域づくり
10. 「文化と地域デザイン」の基礎的な考え方
11. 内発的環境共生地域デザインと評価の実例
12. 文化の変容と地域デザイン
13. 伝統工芸品振興における途上国地域デザインの実例
14. グローバル化とデザイン文化
15. 文化としてのデザインの展望、デザインサーベイ概要、テスト

[キーワード] デザイン, 生活文化, 伝統的価値, 伝統技術とデザイン, 哲学

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介します。

[評価方法・基準] 小テスト、出席数、レポート、テストを総合して評価します。前半の基礎知識の習得の評価は、3 - 4 回の小テストにより行なう。後半はレポートと期末試験により理解度を評価する。

[関連科目] デザイン文化計画演習

[備考] 「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。

T1P028001

授業科目名：プログラミング演習 I

科目英訳名：

担当教員：石橋 圭太

単位数：3.0 単位

授業コード：T1P028001, T1P028002

開講時限等：2 年後期金曜 4 限後半 / 2 年後期金曜 5 限

講義室：工 2 号棟 201 教室

( 授業時間 15:15-17:40 )

#### 科目区分

2009 年入学生：専門選択科目 F36 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・実習

[授業概要] C 言語は、多種あるプログラミング言語の中でも土台となる言語です。言い換えれば、C 言語の基礎を習得することによって、今後、研究や仕事で必要となる言語をマスターすることが飛躍的に容易になります。本授業では、講義と実習を交えながら、プログラミングを行う上での考え方とテクニックを学びます。

[目的・目標] 各自が自分自身の力で、C 言語によるプログラムを書けるようになることを目標とします。( 半期の授業を終えた頃にはおそらくそうなっています。 )

[授業計画・授業内容] 以下の授業計画は、みなさんの進度等に応じて、随時、変更することがあります。

1. プログラミングのための環境準備
2. C 言語プログラムの基本構造
3. 変数の利用、データ入出力
4. プログラミング総合演習 (1)
5. 演算子
6. 制御文
7. 関数の作成、記憶クラス
8. プログラミング総合演習 (2)
9. 配列とポインタ
10. 構造体
11. プリプロセッサ

12. プログラミング総合演習 (3)
13. 標準ライブラリ関数
14. ファイル入出力
15. プログラミング総合演習 (4)

[キーワード] C 言語

[教科書・参考書] C 言語に関する参考書は数多く出版されていますし、web 上でもソースが数多く公開されていますので、必要に応じて自分に適したものを選んでください。

[評価方法・基準] 数回のレポート（プログラムソースとその説明）の総合で評価します。

[備考] 各自必ず PC を持参すること。（バッテリーを十分に充電しておくこと。）Mac OS でも可だが、Windows を利用できる環境にしておく方が便利。

T1P029001

授業科目名： 平面デザイン造形

科目英訳名：

担当教員： 田内 隆利, (小林 基輝)

単位数： 3.0 単位

授業コード： T1P029001, T1P029002

開講時限等： 2 年後期月曜 1 限後半 / 2 年後期月曜 2 限

講義室： 工 2 号棟 101 教室, 工 2-アトリエ (2-601),  
工 2 号棟 101 教室, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2009 年入学生： 専門選択科目 F36 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 演習

[受入人数] 70

[授業概要] 色彩構成及び人物の描写を行い、高度な平面造形力を身につける

[目的・目標] この授業は 1 セメで行ったデザイン造形実習 1 の内容を発展または補完させたものである。この授業ではより高度な色彩の理解、色彩表現力、平面構成力、描写力を養い、さらにそれらを統合した平面造形力を養うことを目的とする。

[授業計画・授業内容] 人物クロッキーでは画材と描き方を様々試みることで、人物の表現方法と対象物の見方を習得する。素描と構成絵画のモチーフおよびテーマは受講者の資質を見ながら設定し、授業内で説明する。

1. 人物クロッキー
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 素描 1
6. 同上
7. 素描 2
8. 同上
9. 構成絵画 1
10. 同上
11. 同上
12. 構成絵画 2
13. 同上
14. 同上
15. 講評

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 各課題の期限内提出の有無及び課題目的への達成度。出席 4/5 以上が条件（4 日以上欠席で不可とする）。

授業科目名：知的財産権セミナー  
 科目英訳名：Seminar: Intellectual Property Rights  
 担当教員：(朝倉 悟)  
 単位数：2.0 単位  
 開講時限等：前期集中 / 前期金曜 4,5 限  
 授業コード：T1Z052001  
 講義室：工 9 号棟 106 教室

## 科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 人まで

[受講対象] 工学部他学科生 履修可

[授業概要] 独創的な知的創造活動により創出された知的財産を権利保護し、この知的財産権を有効に活用することにより、新たな知的財産が創出されていく。このような「知的創造サイクル」を推進していくことは、近年重要な国家戦略として認識されている。この授業では、知的財産権のうち特許に代表される産業財産権を中心として、実務上必要となる基本的な知識と考え方について習得することを目的とする。

[目的・目標] この授業における学習到達目標は、以下のとおりである。1. 知的財産、知的財産権等の概念について、説明することができる。2. 発明の特許要件について理解することができる。3. 特許電子図書館を用いて、特許情報の調査を行うことができる。

[授業計画・授業内容] 主な内容は以下のとおりである。発明を保護する特許制度の説明が中心となるが、他の制度や最近の動向についても解説する。学生の理解・興味等に応じ、適宜変更がありうる。

1. 特許制度の概要
2. 発明の概念
3. 産業上の利用可能性
4. 新規性、進歩性
5. 特許分類と先行技術調査
6. 特許電子図書館の活用
7. 特許請求の範囲，明細書の記載
8. 出願書類の作成
9. 審査，拒絶理由への対処
10. 審判
11. 訴訟
12. 特許権の経済的利用
13. 実用新案制度，意匠制度の概要
14. まとめ・試験

[キーワード] 知的財産，知的財産権，産業財産，産業財産権，発明，特許

[教科書・参考書] 特に指定しないが、特許法が収録された法令集を持参すること。なお、授業に際しては、適宜レジュメを用意するほか、参考書として、工業所有権情報・研修館「産業財産権標準テキスト 総合編」を配布する予定である。

[評価方法・基準] レポート，試験等を総合的に判断して、60 点以上を合格とする。

[履修要件] 特許法の基本的事項について学習するが、法律の知識は前提としない。興味ある学生の積極的な参加を歓迎する。

[備考] 平成 22 年度は 6/4・11・18・25，7/2・9・16 の金曜日 4 限・5 限です。

授業科目名：生活行動の心理学  
 科目英訳名：  
 担当教員：桐谷 佳恵  
 単位数：2.0 単位  
 開講時限等：3 年後期火曜 2 限  
 授業コード：T1P045001  
 講義室：工 2 号棟 101 教室

## 科目区分

2008 年入学生: 専門選択科目 F36 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義

[受入人数] 最大 60 名程度。

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザイン実践者が知っておくべき心理学的知見のうち、特に社会心理学の範囲にかかわるもの(他者とのかかわりでの人の行動について)を概説する。また、実際に実験を行ない、従来の知見の確認も行なう。さらに、即興型ディベートによるコミュニケーショントレーニングを行う。

[目的・目標] デザイン実践者として最低必要な社会心理学の基礎知識を身につける。各授業回のタイトルが、キーワードになっているので、それらを理解することが求められる。また、学術的な知見が、実際われわれの日常生活とどのように具体的に関係しているのか、考察できるようにする。なお、予復習に関しては、キーワードをあげておくので、書籍等で各自調べることが望ましい。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス 心理学における社会心理学の立ち位置について、解説する。 予習としては、シラバス記載内容をよく確認すること。
2. 印象形成 アッシュやアンダーソンの説を解説する。 印象形成、アンダーソンの加重平均モデル、対人情報処理モデル。
3. ステレオタイプ ステレオタイプ、認知的けちについて、解説する。 ステレオタイプ、錯誤相関、認知的けち。
4. 帰属理論に関する実験 帰属理論に関する現象を体験する。 実験実施に支障があるので、予習は必要ない。
5. 帰属理論 ケリーの共変原理などを、解説する。 ケリーの共変原理、因果図式モデル、割引原理、対応バイアス。
6. 集団とリーダーシップ 社会心理学における集団の意味、リーダーシップ研究について解説する。 集団の凝集性、リーダーシップ論。
7. 同調と社会的促進 同調の側面、社会的促進などについて解説する。 同調、逸脱、社会的促進。
8. 囚人のジレンマの実験 社会的ジレンマのうち、「囚人のジレンマ」に関する現象を体験する。 実験実施に支障があるので、予習は必要ない。
9. 社会的ジレンマ 種々の社会的ジレンマについて解説する。 共有地の悲劇、フリーライダー問題、ゲーム理論。
10. 集団的意思決定 同調に関連して、集団的意思決定を解説する。 集団浅慮、アイヒマン実験。
11. 態度 社会心理学における態度、その機能や形成要因について解説する。 態度の定義、はたらき、成分。
12. 態度変容、説得的コミュニケーション バランス理論、認知的不協和理論、説得の効果を規定する要因などについて解説する。 バランス理論、認知的不協和理論、説得。
13. 攻撃と援助 主に攻撃、援助行動について、解説する。 対人魅力、自己開示性、自己提示性、攻撃行動、援助行動。
14. コミュニケーション・トレーニング(基礎編) 少人数即興型ディベートを行い、コミュニケーションスキルを訓練する。 時事問題について、自分なりの意見をまとめておくこと。
15. コミュニケーション・トレーニング(応用編) 大勢を前にした即興型ディベートを行い、コミュニケーションスキルを訓練する。 短い時間の中で、自分の意見を述べる練習をしておくこと。

[キーワード] 社会心理学, 対人行動, コミュニケーション

[教科書・参考書] 授業内で適宜指示する。

[評価方法・基準] 出席状況(遅刻含む)30点、実験・実習レポート20点、小テスト合計50点。期末テストはなし。小テストは、予告無しに数回行う(資料等すべて持ち込み可)。

[備考] 板書あるいはパワーポイントの概要は配布しないので、各自がしっかり講義メモを取る必要がある。また、コミュニケーション・トレーニングでは、全受講生を前にして少人数討論を行うこともあるので、それに抵抗がある者にも受講は勧めない。

授業科目名： トランスポーターデザイン III  
 科目英訳名：  
 担当教員： (菅原 重昭)  
 単位数： 3.0 単位  
 開講時限等： 3 年前期金曜 3 限 / 3 年前期金曜 4 限前半  
 授業コード： T1P031001, T1P031002  
 講義室： 工学系総合研究棟 7 階第 2 会議室

## 科目区分

2008 年入学生： 専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 25 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; トランスポーターデザインを目指す学生 履修可。

[授業概要] 自動車を中心とするトランスポーターデザインの実践的な講義と演習。

[目的・目標] 自ら発案するトランスポーターデザインを通して総合的な視点の醸成と技術レベルの向上を図る。

[授業計画・授業内容] 「10 年後の私の乗りたい自動車」をテーマにコンセプトを立案し、調査、アイデアの展開、レンダリング、クレーモデル、プレゼンテーション、など一連のデザインプロセスを通して、デザイン技術のレベルアップを図る。

1. ガイダンス：前期課題の概要・条件説明
2. テーマ設定、資料収集
3. コンセプトとアイデアの展開
4. コンセプトとアイデアの展開
5. コンセプトとアイデアの展開
6. コンセプトとアイデアの展開
7. コンセプト中間報告
8. アイデアの展開とまとめ
9. アイデアの展開とまとめ
10. レンダリング
11. レンダリング
12. クレーによるモデリング
13. クレーによるモデリング
14. クレーによるモデリング
15. 夏休みを利用した総合リファイン、モデリングプレゼンテーション準備
16. 最終プレゼンテーション合同評価

[キーワード] コンセプト, アイデア展開力, 総合デザイン技術レベルアップ

[教科書・参考書] トランスポーターデザイン演習作品集

[評価方法・基準] コンセプトとデザイン提案と授業態度

[関連科目] 製品デザイン、トランスポーターデザインの演習授業

授業科目名： 環境デザイン III  
 科目英訳名：  
 担当教員：  
 単位数： 3.0 単位  
 開講時限等： 3 年前期金曜 3 限 / 3 年前期金曜 4 限前半  
 授業コード： T1P032001, T1P032002  
 講義室： 工 1-401 ( デザイン実習室 )

## 科目区分

2008 年入学生： 専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 演習

[授業概要] 最も身近な環境形成要素である身体支持具（椅子、ソファ、ベンチ、車椅子等）を対象とした幾つかの選択課題から一つを選び、使用者の要求や使用場所の条件等の調査を経て、製品とそれが使われる場のデザイン提案を行う。各課題の優秀作品は、自作や企業の協力による実物製作を経て、家具デザインコンペ、学生家具デザイン展等への応募・出品推薦の対象となる。

[目的・目標] 「環境」は、言い換えれば「人間をとりまく状況」なのだから、誰もが日常的に接していることだ。現実を目を注げば、きわめて多くの多様なデザインの課題が広がっていることに気づかされる。本演習では、最も身近な環境形成要素である身体支持具のデザインを手がかりに、使用者と製品・空間とのかかわりを総合的にとらえる環境デザインの基本を学んで行く。

[授業計画・授業内容]

1. 講義：環境形成製品としてのストリートファニチャー (SF) 講義：環境形成製品と場のデザイン：あるデザイナーの仕事为例として 選択課題の説明
2. 講義：各課題の背景 / 企業における開発の実際
3. 調査（学外）
4. 講義：環境形成製品と使用される場とのかかわり
5. 調査結果と基本方針の発表 / 講評
6. 講義：SF に関する人間工学的・心理学的の基本と可能性 講義：SF に関する構造・材料の基本と可能性
7. 講義：SF の開発プロセスと図面表現 / 模型製作技法
8. 作業 / 個別相談
9. 作業 / 個別相談
10. SF のデザイン提案の発表 / 講評
11. 環境形成製品と使用される場の図面表現 / 模型製作技法
12. 調査（学外）
13. 作業 / 個別相談
14. 作業 / 個別相談
15. 使用される場を含めた総合的デザイン提案の発表 / 講評 全課程終了後、選ばれたデザイン提案は、さらなる特別指導を経て、各協力企業の関連工場等で実習方式をとりながら実物製作に進む可能性を持ち、その他の優秀作品とともに、学内外で発表展示を行い、各種デザインコンペや、学生デザイン展への応募・出品推薦の対象となる予定。なお、上記課程は、初回にて受講表明をした学生数により、調整する。

[キーワード] 環境形成製品のデザイン, ストリートファニチャー, 身体支持具, 家具デザイン, 場のデザイン

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

[評価方法・基準] 各課題の成績と、各回に提出されたコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[履修要件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、課題の一部でも提出されなかった場合は、原則として単位は与えられない。

[備考] 「生活環境デザイン III」の読み替え科目である。

T1P033001

授業科目名：コミュニケーションデザイン III

科目英訳名：

担当教員：桐谷 佳恵, 玉垣 庸一, (狐塚 康己)

単位数：3.0 単位

開講時限等：3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限

授業コード：T1P033001, T1P033002

講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前半 8 週は企業活動における広告の立案、雑誌広告、ポスターなどの平面媒体への展開について講義、演習を行う（非常勤講師 狐塚康己先生）。続く 3 週はカラーイメージボードの作成を行う（桐谷）。続く 4 週はコンピュータを利用したカラーシステムの制作を行う（玉垣）。

[目的・目標] コミュニケーションデザインの思考能力、表現能力を養う。具体的には、1) 具体的な広告立案の作業を通じ、個々のメディア特性に適した表現に落とし込んで行く課題を通じて、総合的に広告展開する能力を身につける。2) 色彩感情を理解し、短時間でカラーイメージボードを作成できるようにする。3) 課題制作を通じて色情報を的確に表現できるようにする。予習としては、キーワードについて調べ、復習としては、授業内で作成した課題のブラッシュアップを行うことが望ましい。

[授業計画・授業内容]

1. イントロダクション
2. 企業広告の基礎
3. 戦略と広告
4. アイデアと広告
5. アプリケーション展開
6. 広告制作 1
7. 広告制作 2
8. プレゼンテーション, 講評
9. グループでのカラーイメージボードの作成: 授業開始時与えられたテーマに対して、課題を時間内で完成させる。グループ作業なので、よくディスカッションして行うこと。
10. グループでのカラーイメージボードの作成: 前回同様に課題を行うが、対象を変えて行う。
11. 個人でのカラーイメージボードの作成: 前回までのグループ作業を、個人で行う。
12. カラーシステムの基礎についての講義
13. コンピュータによるカラーシステムの可視化の考え方
14. 制作
15. プレゼンテーション

[キーワード] 企業広告, 色彩感情, イメージの伝達, 色彩情報

[教科書・参考書] 授業にて紹介する

[評価方法・基準] 出席状況および課題制作

[備考] 平成19年度まで開講されていた「メディアデザイン III」, 旧カリで開講されていた「メディアデザイン演習 II」の読替科目

T1P034001

授業科目名: デザイン科学演習 III

科目英訳名:

担当教員: 青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 岩永 光一, 石橋 圭太

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 3 年前期金曜 1 限後半 / 3 年前期金曜 2 限

授業コード: T1P034001, T1P034002

講義室: 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[受講対象] デザイン学科 3 年次学生

[授業概要] 本授業では、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の 4 つのデザイン科学分野について演習を行う。演習では、各分野が設定したテーマに関する実験や実習を行い、その内容と成果をまとめたプレゼンテーションを行う。

[目的・目標] 材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の 4 つのデザイン科学分野について、デザインにおける基本的役割を理解するとともに、デザインにおける科学的アプローチの基礎的な知識と手法を修得することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 受講者を 4 グループに分けて実施する。各グループは、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の 4 つの演習をグループ単位で 3 週間ずつ順次受講する。4 つの演習の順序はグループによって異なる。第 1 週は、グループ分け、各演習の課題の説明を行い、第 14・15 週はグループごとに 4 つの演習内容・成果の発表および質疑応答を行う。

1. ガイダンス

2. 材料計画演習 ( 1 )
3. 材料計画演習 ( 2 )
4. 材料計画演習 ( 3 )
5. 人間生活工学演習 ( 1 )
6. 人間生活工学演習 ( 2 )
7. 人間生活工学演習 ( 3 )
8. デザイン心理学演習 ( 1 )
9. デザイン心理学演習 ( 2 )
10. デザイン心理学演習 ( 3 )
11. 人間情報科学演習 ( 1 )
12. 人間情報科学演習 ( 2 )
13. 人間情報科学演習 ( 3 )
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

[キーワード] 材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学

[評価方法・基準] 各演習課題に関するレポート、プレゼンテーションによって評価する。

[関連科目] デザイン科学 I、デザイン科学 II、デザイン科学演習 I、デザイン科学演習 II

[履修要件] デザイン科学演習 IV を履修するためには、この科目を履修すること。

[備考] 大学院への進学を予定する学生には、履修を強く推奨する。

T1P043001

授業科目名：コミュニケーションデザイン IV

科目英訳名：

担当教員： 桐谷 佳恵, 玉垣 庸一

単位数： 3.0 単位

開講時限等: 3 年後期水曜 3 限 / 3 年後期水曜 4 限前半

授業コード: T1P043001, T1P043002

講義室： 工 1-401 ( デザイン実習室 )

#### 科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] はじめの 4 週は、人と動物のきずなを共生デザインの事例として捉え、コミュニケーション支援研究を行う ( 桐谷 )。続く 7 週は、外部より講師 ( 黎デザイン総合計画研究所赤瀬達三氏 ) をお招きして、公共空間のコミュニケーションデザイン計画の講義と演習を行う。公共空間のコミュニケーションデザイン計画の提案内容は、続く 4 週で 3 次元データ化し、ウォークスルーによるインタラクティブなプレゼンテーション映像を制作する ( 玉垣 )。

[目的・目標] コミュニケーションデザインの応用・展開力を身につける。具体的には、1) コミュニケーション支援研究について、具体的な研究の立案を行えるようにする。2) 現地調査に基づく空間的なコミュニケーションデザイン展開手法を修得する。3) 3 次元データの動的なプレゼンテーションの仕方を修得する。予習としては、キーワードについて調べ、復習は適宜授業内で指示した課題に取り組むこと。

[授業計画・授業内容]

1. 先行事例の紹介及びディスカッション：動物愛護教育に関するデザイン提案の紹介の後、与えられたテーマで 2 群に分かれて討論を行う。
2. 研究対象の決定：前回の討論を受けて、コミュニケーション支援が必要となる人と動物の共生に関する問題を掘り起こす。また、テーマの背景を調査する。
3. 研究方法の決定：前回設定した研究対象に、いかにアプローチするかを議論する。引き続き、テーマの背景を調査する。
4. プレゼンテーション：予測される研究の成果なども含めて、立案した研究について紹介する。
5. 公共空間のコミュニケーションデザイン 課題説明
6. 現地調査、データ収集
7. 調査結果のまとめ
8. 調査結果の分析に基づく提案コンセプトの検討

9. 改善案の制作 1
10. 改善案の制作 2
11. プレゼンテーション
12. 3次元ウォークスルー映像の作成手順ならびに課題説明
13. 図面から3次元座標を読みとってテキストデータ化する
14. テキストデータ入力によるウォークスルー映像の制作
15. プレゼンテーション

[キーワード] パブリックインフォメーション, 可視化, 空間記号論, 人と動物のきずな (HAB) 研究

[教科書・参考書] 授業にて紹介する

[評価方法・基準] 出席状況および課題制作

[備考] 平成19年度まで開講されていた「メディアデザインIV」, 旧カリにおける「メディアデザイン演習III」の読替科目

T1P035001

授業科目名: デザイン数理解析論

科目英訳名:

担当教員: 岩永 光一, 桐谷 佳恵, 寺内 文雄

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 3 年前期水曜 3 限

授業コード: T1P035001

講義室: 工 2 号棟 101 教室

科目区分

2008 年入学生: 専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] この授業では、デザイン科学で使用する統計的手法の中で、特に頻繁に使用される分散分析、多変量解析、数量化理論の3つについて、基本的な考え方と知識を示すとともに、演習によってこれらの基本的な統計解析の手法を学ぶ。

[目的・目標] 分散分析、多変量解析、数量化理論の3つの統計手法に関する基本的な考え方を理解し、デザイン科学におけるさまざまな課題について、これらの手法を応用して解析することができる基礎的能力の獲得を目指す。

[授業計画・授業内容] 授業では、「分散分析」「多変量解析」「数量化理論」の3つについて、基本的な知識、考え方に関する講義を行うとともに、演習を行う。

1. デザイン科学における分散分析: 事例
2. 分散分析と実験計画: 分散分析のモデル
3. 一元配置分散分析と分散分析表
4. 二元配置分散分析と交互作用
5. 分散分析と事後比較検定
6. 統計的知識を問う事前テストおよび解説
7. 重回帰分析
8. 数量化理論 I 類
9. 判別分析
10. 数量化理論 II 類
11. コレスポンデンス分析
12. 多次元尺度構成法と数量化理論 IV 類
13. 主成分分析と因子分析 / クラスタ分析 (1)
14. 主成分分析と因子分析 / クラスタ分析 (2)
15. 数量化理論 III 類とクラスタ分析
16. テスト

[キーワード] 統計学、デザイン科学、分散分析、多変量解析、数量化理論

[教科書・参考書] 授業中に指示する

[評価方法・基準] 授業中に行う演習の成果によって、3つのテーマそれぞれについて評価し、それらを総合化して採点・評価する。

T1P036001

授業科目名：色と形の心理学	〔千葉工大開放科目、専門科目共通化科目〕
科目英訳名：	
担当教員：	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年前期月曜 3 限
授業コード：T1P036001	講義室：工 2 号棟 103 教室

## 科目区分

2008 年入学生：専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90 名程度

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] デザインの領域で必要となる色彩および形態の知覚の基礎について、心理学の視点から概説する。

[目的・目標] デザインに関わる諸問題を考察する場合に必要な心理学的視点の涵養を目指し、人間の知覚特性に関する知識について理解を深める。具体的には、デザインの観点から色彩心理学および色彩工学における基礎理論について概説するとともに、形態知覚の基礎についても概観する。

[授業計画・授業内容] 人間にとってよりよいデザインを実現するためには人間の知覚特性に対する正しい理解が必要である。本授業では、特に心理学の視点から色と形の問題について詳しく考える。

1. はじめに：デザインの領域における色と形の心理学
2. 色彩の基礎理論
3. 「色の見え」に関する諸問題
4. マンセル表色系(1)：演習課題も行う
5. マンセル表色系(2)：演習課題も行う
6. 課題についてのまとめ
7. 色彩の心理効果
8. 色彩工学の基礎
9. 色彩とデザインの問題
10. 形態知覚の基礎
11. 形態知覚に関する諸問題
12. 形態知覚特性の応用
13. 複合的な色と形の知覚の問題点
14. デザイン心理学とのかかわり
15. 全体のまとめと試験

[キーワード] 色, 形, デザイン心理学, 人間, 知覚

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する。

[評価方法・基準] 出席(毎回出席をチェックする): 30%; レポート・課題: 30%; 試験: 40%

[関連科目] デザイン科学 II

[履修要件] デザイン科学 II を受講していることが望ましい。

[備考] デザイン心理学研究室配属希望者は受講すること。

T1P037001

授業科目名：環境人間工学	
科目英訳名：	
担当教員：	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年前期水曜 2 限
授業コード：T1P037001	講義室：工 2 号棟 202 教室

## 科目区分

2008 年入学生: 専門選択科目 F36 ( T1P:デザイン学科 )

## [授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] ヒトを取り囲む環境とヒトの関係を人間工学, 生理人類学の観点から講義する。特に光環境, 音環境を取り上げ, 光や音がヒトの生理機能に及ぼす影響や, 望まし光環境, 音環境について紹介する。

[目的・目標] 人間中心設計の立場から快適な空間をデザインする上で必要な人間工学, 生理人類学について理解する。光環境, 音環境がヒトにどのような影響を及ぼすのかを説明でき, 生理機能を評価するための方法を理解し, ヒトにとって望ましい環境について討議できる。

[授業計画・授業内容] 毎回、質問紙による理解度のチェックを行う。授業時間外に授業中に指示されたキーワードについて調べておくこと。

1. 環境人間工学とは何かー環境人間工学とは何かを概説する
2. 自然光と人工光ー自然光としての太陽光, 人工光としての照明光の特徴を解説する
3. 光と生体リズム
4. 光と味覚
5. 光と自律神経機能
6. 光と中枢神経機能
7. ヒトの視覚機能
8. これまでのまとめと中間評価
9. 望ましい光環境
10. ヒトの聴覚機能
11. 音と自律神経機能
12. 音と中枢神経機能
13. 音のデザイン
14. 超音波とヒト
15. まとめと期末評価

[キーワード] 人間工学, 生理人類学, 光環境, 音環境, 生理機能

[教科書・参考書] 環境人間工学, 佐藤・勝浦著 (朝倉書店)

[評価方法・基準] 中間試験, 期末試験によって総合的に評価する

[関連科目] デザイン科学 II, デザイン科学演習 I~IV

[履修要件] なし

T1P038001

授業科目名: プログラミング演習 II

科目英訳名:

担当教員: (小城 浩之), 玉垣 庸一

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 3 年前期金曜 4 限後半 / 3 年前期金曜 5 限

授業コード: T1P038001, T1P038002

講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分

2008 年入学生: 専門選択科目 F36 ( T1P:デザイン学科 )

## [授業の方法]

[授業概要] プログラミング技術に習熟すれば, あてがわれた既存アプリケーションでの類型的なデザインワークから, 自ら作成したデザインツールによる真にオリジナルなデザインへ飛躍することも夢ではない。この授業はこうした高い目標への契機となるよう, CG の専門家を非常勤講師に迎えて講義, 演習を行う。

[目的・目標] プログラミングによるデザイン表現とはどのようなものであるかを理解する。具体的には, インタラクティブコンピュータグラフィックスのアルゴリズムおよび C 言語を用いたコーディング手法を修得する。キーワードをあげておくので各自で調べておき (予習), また授業内で生じた新たな疑問についても調べておく (復習) こと。

## [授業計画・授業内容]

1. 基本環境の確認と目標の説明
2. アルゴリズムの説明と演習 (1-1)
3. アルゴリズムの説明と演習 (1-2)
4. 課題制作 (テーマ 1)
5. 課題制作 (テーマ 1)
6. アルゴリズムの説明と演習 (2-1)
7. アルゴリズムの説明と演習 (2-2)
8. アルゴリズムの説明と演習 (2-3)
9. 課題制作 (テーマ 2)
10. 課題制作 (テーマ 2)
11. アルゴリズムの説明と演習 (3-1)
12. アルゴリズムの説明と演習 (3-2)
13. アルゴリズムの説明と演習 (3-3)
14. 課題制作 (テーマ 3)
15. 課題制作 (テーマ 3)

[キーワード] Born Digital

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] 出席状況および課題制作

T1P039001

授業科目名： デザイン文化計画演習

(千葉工大開放科目)

科目英訳名：

担当教員：

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 3 年前期木曜 1 限後半 / 3 年前期木曜 2 限

授業コード： T1P039001, T1P039002

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2008 年入学生： 専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 40 名を目処に班分け実施体制を考慮する。

[授業概要] 地域社会におけるデザイン文化の諸相、サーベイ手法を理解し、近隣地域における演習を通して把握・解析する。なお、フィールド・サーベイの意義・方法等を学習した後、夏季休業中に地域社会に一週間ほど出向いて、実際のフィールド・サーベイを行う。得られた知見を地域社会に向けたデザイン提案としてまとめ、発表する。

[目的・目標] 人間生活の「あるべき姿」の探求・提案としてのデザイン実践にあたっては、「これまで」および「今日」の生活文化に関する総点検を欠かすことができない。そのためには、「野に出て生活を学ぶ」フィールド・サーベイを通じて、受講生が、地域の人びとの生活文化の総体を歴史的・風土的脈絡のなかでしっかりとみつめる必要がある。本演習は、「デザイン文化論」で学び築いた生活文化解析の視座に基づき、受講生が実際の地域社会における生活文化の「あるべき姿」を探求・提案する資質を涵養することを目的としている。

[授業計画・授業内容] 本授業は講義・演習・フィールドサーベイの 3 構成からなる。地域とデザイン、サーベイ手法等の講義の後、大学構内あるいは近辺で、演習を行い、サーベイの準備を経て、約一週間、サーベイ対象地域に滞在し、サーベイ、提案、発表、評価を行なう。

1. 地域生活づくりのデザインのためのフィールドサーベイの概要、設定テーマの概要と希望テーマ選択の班分け
2. テーマ設定に基づく地域社会における「自然との共生」「資源利活用」「環境・景観形成」のデザイン要素に関する知識
3. フィールドサーベイの手法の習得・演習
4. 調査項目の整理の仕方、質問手法の習得・演習
5. 調査項目の整理の仕方、質問手法の習得・演習
6. 演習グループ発表と演習の補足講義
7. 調査対象地域の訪問・事前探査

8. 調査地の概要の把握 (フィールドサーベイ対象地の訪問あるいは対象地域の代表者の講義および懇親・質疑応答)
9. テーマ設定と調査計画・項目の検討
10. フィールド・サーベイの実施
11. フィールド・サーベイの実施
12. フィールド・サーベイの実施
13. フィールド・サーベイのまとめ
14. フィールド・サーベイに基づいたデザイン提案の検討
15. 報告会の開催およびフィールド・サーベイを通じたデザイン文化の展望

[キーワード] デザイン, フィールドサーベイ, 生活文化, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 資料・参考文献等を授業のなかで紹介・提示します。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、プレゼンテーションの状況に基づいて行います。特に、生活文化の「あるべき姿」を探求・提案する資質を涵養することが出来たかどうかの評価はサーベイ最終日の発表内容と、デザイン提案に対する地域の人との質疑にたいする対応内容により評価する。

[関連科目] デザイン文化計画

[履修要件] 特にありません。

[備考] 「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。

T1P040001

授業科目名: 工業デザイン IV

科目英訳名:

担当教員:

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 3 年後期木曜 3 限後半 / 3 年後期木曜 4 限

授業コード: T1P040001, T1P040002

講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分

2008 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 15

[授業概要] 工業デザインにおけるビジネスモデルプランニングを演習を通して習得する。

[目的・目標] 工業デザインの中でも、システムとしての形相を持つ物を対象にする。ビジネスモデルとしてのシステムを提案し、新たな生活を提案するようなプロダクトを提案する。一方で、ユーザーモデルの構築のためにデザイン心理学的な側面よりプロトコル分析を行う。ホームネットワーク、ネットワークプロダクトのような家庭内のシステムから、ユビキタスネットワークのように公共性の高いプロダクトのシステムまで幅広い領域を対象にする。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. ビジネスモデルに関するケーススタディ分析
3. ユーザー調査
4. ユーザー行動分析・ユーザーの特徴把握
5. コンセプトの決定・ユーザーターゲットの設定とプレゼンテーション
6. アピアランス検討
7. システム検討
8. システム評価
9. インターフェイス検討
10. インターフェイス決定デザイン展開
11. デザイン展開
12. ユーザビリティ調査
13. ユーザビリティレビュー
14. プレゼンテーション準備

## 15. プレゼンテーション

[キーワード] デザインビジネスモデル、ユーザーエクスペリエンス、ユーザーセンタード

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 作品モデルおよびプレゼンテーション最終のプレゼンテーションで評価

T1P041001

授業科目名： トランスポーターデザイン IV

科目英訳名：

担当教員： (林 孝一), 小原 康裕

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 3 年後期金曜 4 限後半 / 3 年後期金曜 5 限

授業コード： T1P041001, T1P041002

講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分

2008 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 25 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; トランスポーターデザインを目指す海外留学生も履修可とする。

[目的・目標] 自動車を主とするトランスポーターデザインの演習 総合的な視点の醸成と技術レベルの向上を図る。

[授業計画・授業内容] 「具体的なプレミアムブランドを想定した将来のフラッグシップセダンの提案」をテーマにコンセプトを立案し、調査、アイデアの展開、表示、クレイモデル、プレゼンテーション、など一連のデザインプロセスを通して、デザイン技術のレベルアップを図る。

1. ガイダンス：前期課題プレゼンテーションテーマ・条件説明
2. 調査、テーマ設定
3. 調査、テーマ設定/コンセプトとアイデア展開
4. コンセプトとアイデア展開
5. コンセプトとアイデアの展開
6. アイデアの展開まとめ
7. コンセプトとアイデア中間報告
8. レンダリング
9. レンダリング
10. クレーモデリング
11. クレーモデリング
12. プレ発表&準備(クレーによるモデリング)
13. 最終プレゼンテーション合同評価
14. トランスポーターデザイン III を含めたポートフォリオレベルアップ
15. トランスポーターデザイン III を含めたポートフォリオレベルアップ
16. トランスポーターデザイン III を含めたポートフォリオレベルアップ

[キーワード] コンセプト、プレミアム、総合デザイン技術レベルアップ

[評価方法・基準] コンセプトとデザイン提案

[関連科目] 製品デザイン、トランスポーターデザインの演習授業

T1P042001

授業科目名： 環境デザイン IV

科目英訳名：

担当教員：

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 3 年後期火曜 4 限後半 / 3 年後期火曜 5 限

授業コード： T1P042001, T1P042002

講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 20 人

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 現場の第一線で活躍中のデザイナーを講師に迎え、最新事例の見学や解説を通して実際の手法について学ぶ。課題では、具体的な空間、展示対象を想定し、実際の計画に即したプロセスをとりながら展示デザインを行う。

[目的・目標] 伝達・訴求機能を主目的として空間を演出するディスプレイ（展示）デザインの特性を認識し、計画上の構成要素について考察する。また、課題を通し実際の展示デザインに関して造詣を深める。

[授業計画・授業内容] ・空間デザインの実例とデザインプロセスについて・ゾーニング 平面プランの考え方・アイディアの展開・表現手法について・課題 1 文化施設における展示計画・プレゼンテーション及び講評・課題 2 商業施設における企画・デザイン・プレゼンテーション及び講評

1. ガイダンス
2. 商業施設における企画・デザイン
3. 課題に対する基礎調査 1
4. 課題に対する基礎調査 2
5. アイディア展開 1・ディスカッション
6. アイディア展開 2・ディスカッション
7. アイディア展開 3・ディスカッション
8. プレゼンテーション・まとめ
9. 文化施設における展示計画
10. 課題に対する基礎調査 1
11. 課題に対する基礎調査 2
12. アイディア展開 1・ディスカッション
13. アイディア展開 2・ディスカッション
14. アイディア展開 3・ディスカッション
15. プレゼンテーション・まとめ

[キーワード] 展示デザイン, 商業施設, 文化施設, 空間

[教科書・参考書] 授業の中で適宜指示する。

[評価方法・基準] 課題の成果物によって評価する。

[関連科目] 環境デザイン I, 環境デザイン II, 環境デザイン III

[備考] 「生活環境デザイン IV」の読み替え科目である。

T1P044001

授業科目名：デザイン科学演習 IV

科目英訳名：

担当教員：青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄, 田内 隆利, 勝浦 哲夫, 下村 義弘, 日比野 治雄, 小山 慎一, 岩永 光一, 石橋 圭太

単位数：3.0 単位

開講時限等：3 年後期月曜 1 限後半 / 3 年後期月曜 2 限

授業コード：T1P044001, T1P044002

講義室：工 2 号棟 201 教室

## 科目区分

2008 年入学生：専門選択必修 F20 ( T1P:デザイン学科 )

[授業の方法] 演習

[受講対象] デザイン学科 3 年次学生

[授業概要] 本授業では、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の 4 つのデザイン科学分野について演習を行う。演習では、各分野が設定したテーマに関する実験や実習を行い、その内容と成果をまとめたプレゼンテーションを行う。

[目的・目標] 材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つのデザイン科学分野について、デザインにおける基本的役割を理解するとともに、デザインにおける科学的アプローチの基礎的な知識と手法を修得することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 受講者を4グループに分けて実施する。各グループは、材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学の4つの演習をグループ単位で3週間ずつ順次受講する。4つの演習の順序はグループによって異なる。第1週は、グループ分け、各演習の課題の説明を行い、第14・15週はグループごとに4つの演習内容・成果の発表および質疑応答を行う。

1. ガイダンス
2. 材料計画演習(1)
3. 材料計画演習(2)
4. 材料計画演習(3)
5. 人間生活工学演習(1)
6. 人間生活工学演習(2)
7. 人間生活工学演習(3)
8. デザイン心理学演習(1)
9. デザイン心理学演習(2)
10. デザイン心理学演習(3)
11. 人間情報科学演習(1)
12. 人間情報科学演習(2)
13. 人間情報科学演習(3)
14. プレゼンテーション
15. プレゼンテーション

[キーワード] 材料計画、人間生活工学、デザイン心理学、人間情報科学

[評価方法・基準] 各演習課題に関するレポート、プレゼンテーションによって評価する。

[関連科目] デザイン科学I、デザイン科学II、デザイン科学演習I、デザイン科学演習II

[履修要件] デザイン科学演習IVを履修するためには、この科目を履修すること。

[備考] 大学院への進学を予定する学生には、履修を強く推奨する。

T1P045001

授業科目名：生活行動の心理学

科目英訳名：

担当教員：桐谷 佳恵

単位数：2.0 単位

授業コード：T1P045001

開講時限等：3年後期火曜2限

講義室：工2号棟101教室

科目区分

2008年入学生：専門選択科目 F36 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 最大60名程度。

[受講対象] 学部他学科生 履修可

[授業概要] デザイン実践者が知っておくべき心理学的知見のうち、特に社会心理学の範囲にかかわるもの(他者とのかかわりでの人の行動について)を概説する。また、実際に実験を行ない、従来の知見の確認も行なう。さらに、即興型ディベートによるコミュニケーショントレーニングを行う。

[目的・目標] デザイン実践者として最低必要な社会心理学的基礎知識を身につける。各授業回のタイトルが、キーワードになっているので、それらを理解することが求められる。また、学術的な知見が、実際われわれの日常生活とどのように具体的に関係しているのか、考察できるようにする。なお、予復習に関しては、キーワードをあげておくので、書籍等で各自調べることが望ましい。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス 心理学における社会心理学の立ち位置について、解説する。予習としては、シラバス記載内容をよく確認すること。

2. 印象形成 アッシュやアンダーソンの説を解説する。 印象形成，アンダーソンの加重平均モデル，対人情報処理モデル。
3. ステレオタイプ ステレオタイプ，認知的けちについて，解説する。 ステレオタイプ，錯誤相関，認知的けち。
4. 帰属理論に関する実験 帰属理論に関する現象を体験する。 実験実施に支障があるので，予習は必要ない。
5. 帰属理論 ケリーの共変原理などを，解説する。 ケリーの共変原理，因果図式モデル，割引原理，対応バイアス。
6. 集団とリーダーシップ 社会心理学における集団の意味，リーダーシップ研究について解説する。 集団の凝集性，リーダーシップ論。
7. 同調と社会的促進 同調の側面，社会的促進などについて解説する。 同調，逸脱，社会的促進。
8. 囚人のジレンマの実験 社会的ジレンマのうち，「囚人のジレンマ」に関する現象を体験する。 実験実施に支障があるので，予習は必要ない。
9. 社会的ジレンマ 種々の社会的ジレンマについて解説する。 共有地の悲劇，フリーライダー問題，ゲーム理論。
10. 集団的意思決定 同調に関連して，集団的意思決定を解説する。 集団浅慮，アイヒマン実験。
11. 態度 社会心理学における態度，その機能や形成要因について解説する。 態度の定義，はたらき，成分。
12. 態度変容，説得的コミュニケーション バランス理論，認知的不協和理論，説得の効果を規定する要因などについて解説する。 バランス理論，認知的不協和理論，説得。
13. 攻撃と援助 主に攻撃，援助行動について，解説する。 対人魅力，自己開示性，自己提示性，攻撃行動，援助行動。
14. コミュニケーション・トレーニング（基礎編） 少人数即興型ディベートを行い，コミュニケーションスキルを訓練する。 時事問題について，自分なりの意見をまとめておくこと。
15. コミュニケーション・トレーニング（応用編） 大勢を前にした即興型ディベートを行い，コミュニケーションスキルを訓練する。 短い時間の中で，自分の意見を述べる練習をしておくこと。

[キーワード] 社会心理学，対人行動，コミュニケーション

[教科書・参考書] 授業内で適宜指示する。

[評価方法・基準] 出席状況（遅刻含む）30点、実験・実習レポート20点、小テスト合計50点。期末テストはなし。  
小テストは、予告無しに数回行う（資料等すべて持ち込み可）。

[備考] 板書あるいはパワーポイントの概要は配布しないので、各自がしっかり講義メモを取る必要がある。また、コミュニケーション・トレーニングでは、全受講生を前にして少人数討論を行うこともあるので、それに抵抗がある者にも受講は勧めない。